

平成21年第1回那須烏山市議会定例会（第4日）

平成21年3月6日（金）

開議 午前10時00分

散会 午後 4時27分

◎出席議員（19名）

1番	松本勝栄君	2番	渡辺健寿君
3番	久保居光一郎君	4番	高德正治君
5番	五味渕博君	6番	沼田邦彦君
7番	佐藤昇市君	8番	佐藤雄次郎君
9番	野木勝君	10番	大橋洋一君
12番	大野曄君	13番	平山進君
14番	水上正治君	15番	小森幸雄君
16番	平塚英教君	17番	中山五男君
18番	樋山隆四郎君	19番	滝田志孝君
20番	高田悦男君		

◎欠席議員（なし）

◎説明のため出席した者の職氏名

市長	大谷範雄君
副市長	石川英雄君
教育長	池澤進君
会計管理者兼会計課長	斎藤雅男君
参事兼福祉事務所長	零正俊君
参事兼都市建設課長	池尻昭一君
総合政策課長	国井豊君
総務課長	木村喜一君
税務課長	高野悟君
市民課長	鈴木敏造君
健康福祉課長	斎藤照雄君
こども課長	堀江久雄君
農政課長	中山博君

商工観光課長	平 山 孝 夫 君
環境課長	両 方 恒 雄 君
上下水道課長	荻野目 茂 君
学校教育課長	駒 場 不 二 夫 君
生涯学習課長	鈴 木 傑 君

◎事務局職員出席者

事務局長	田 中 順 一
書 記	藤 田 元 子
書 記	佐 藤 博 樹

○議事日程

日程 第 1 一般質問について（議員提出）

日程 第 2 （議案第1号～第10号）平成21年度那須烏山市一般会計・特別会計・事業会計予算について※質疑～委員会付託

○本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

〔午前10時00分開議〕

○議長（水上正治君） おはようございます。議員の皆さまにおかれましては、連日ご苦労さまです。また、傍聴席には足元の悪い中、大勢の方にご参加いただき、大変ありがとうございます。これからもこの議会には関心を持っていただければというふうに思っております。よろしくお祈りいたします。

ただいま出席している議員は19名です。定足数に達しておりますので、ただいまから会議を開きます。

日程に入る前に報告いたします。地方自治法第121条の規定に基づき、市長以下関係課長等の出席を求めていますので、ご了解願います。

本日の議事日程はお手元に配付のとおりです。

◎日程第1 一般質問について

○議長（水上正治君） 日程第1 一般質問を通告に基づき行います。なお、議会運営に関する申し合わせにより、質問者の持ち時間を質問と答弁を含めて90分としておりますことから、議長において時間を計測し、持ち時間の90分を超えた場合は制止いたしますので、ご了解願います。質問、答弁は簡潔明瞭に行うようこの際お願いしておきます。

それでは、通告に基づき、6番沼田邦彦君の発言を許します。

6番沼田邦彦君。

〔6番 沼田邦彦君 登壇〕

○6番（沼田邦彦君） おはようございます。議長に発言の許可をいただきましたので、通告に基づき一般質問をさせていただきたいと思っております。本日、平成21年第1回那須烏山市定例議会第4日目となっております。一般質問は3日目に入り、私で最後の質問者となりますが、私にとってみれば一番最初の一般質問となります。いわばデビュー戦となります。ここに来るまでには3年かかりましたが、3年間温めてきたものもございまして、私なりに本気で大谷市長にはぶつけてまいりたいと思っております。ときには厳しいことも質問をするかもしれませんが、大谷市長におかれましては毎日毎日厳しい顔をされておりますので、きょうはたまにはにこっとするような質問もぶつけていきたいと思っておりますので、難しいことはありません。直感の部分でいろいろと答弁をいただければありがたいと思っております。

では、早速質問に入りたいと思っております。大項目に分けて3つ、1番、市長の施政観について、那須烏山市風土記より質問をしていきます。2番、地域振興、知恵と汗、涙と笑いで地域振興を探っていきます。3番目、図書館と郷土資料館のあり方、今の那須烏山市の現状を踏まえて

いろいろな角度から迫っていきたいと思います。

市長の施策（那須烏山風土記）観について、年が明けて平成21年、福田富一県知事は下野21フォーラム1月例会で、愛すべき故郷再認識、県民挙げて全国に発信と講演し、栃木県民は県民意識が薄く、影が薄いと言われているが、本県の農畜産物や歴史、文化、自然はどこと比較しても負けない。問題は私たちがそのよさに気づいていないことと指摘をしております。

市長は、那須烏山風土記の発刊に寄せて、「自然と優しさと知恵をはぐくむ暮らしやすい町那須烏山市が誕生いたしました。今、まさに地方自治は地方分権の時代を迎えました。生まれたての那須烏山市が夢と希望あふれるふるさととして、多くの人々に愛される自立した住民主役のまちづくりを具現化していきたいと考えております」と寄稿しております。

また、2009年の新年の抱負に、「昨年アメリカ発の世界的金融危機のあおりを受け、景気が急激に後退し、本市経済も企業の経営悪化に大変厳しい状況になった。この危機を乗り越えて飛躍の年にすると語り、さらに那須烏山市が誕生して4年目を迎えました。この間を総括しますと、住民相互の融和、融合、協調を積極的に提唱しつつ、さまざまな政策課題の対応に最大限心血を注いだ結果、小さくてもきらりと光る那須烏山市を理念とする市政に多くの成果を残すことができました」と語っておられます。

那須烏山風土記の中に、イギリスはロンドンのフィリップ社と言えば、地図では世界的権威のある出版社であります。昭和26年に出版されましたレコード・アトラスという世界地図があります。その世界地図にはもちろん日本も搭載されておりますが、その栃木県のところを見ると3つだけ地名が書かれておりました。1つは宇都宮であり、1つは日光、そしてもう一つは我が烏山でありました。

栃木県に烏山ありと全世界に名を轟かせたいいわゆる市長の言葉を借りるならば、小さくともきらりと光る時代があったわけであります。そこでお伺いをいたします。1点目は、行政の継続性から見て、この事実について素直な感想を伺います。

2点目は、昭和26年から54年たった平成21年の今日の我が那須烏山市の状況について、イギリスのフィリップ社は何番目に記述するかわかりませんが、その辺を含めて市長の見解をお願いしたいと思います。

次に、那須烏山市の地域振興策についてお伺いをいたします。寝ても覚めても世界が、日本が、中央が、地方が暗いニュースばかりでございます。霞が関の埋蔵金については中央政界で話題になっておりますが、城下町那須烏山市大木須地内にも埋蔵金があると言われております。

暗い不況の嵐の中、こんなときこそ知恵と汗、涙と笑いで明るい夢、地域おこしをやるべきだと思います。木須大膳とは江戸時代の烏山城主大久保佐渡守、家老職にあったものの名前です。現在は大木須、小木須に分かれておりますが、昔は木須村といい、この辺一帯を木須大膳

が支配をしておりました。旧大木須小学校の向いにある権現山はこの木須大膳の城の跡であると地元では言い伝えられております。

木須大膳は不慮に備えて莫大な金、銀を権現山の周辺に貯蔵したと伝えられ、恐らく地下に土蔵をつくり、隠したと言われております。また、この地方に朝日さし、夕日輝く松の根に黄金千貫という歌が残されております。この歌こそ金久保の財宝を隠しておいた場所と示したものと地元の人には信じている。そう風土記には書かれております。地元で確認すると、確かに権現山は実在し、城の跡もあるようです。この際、朝日さし夕日輝く松の根に黄金千貫を大いに探索し、PRすべきと思いますが、市長の考えを伺います。

マスコミとの連携、情報化について、今や県内市町村では持てる資源をフル活用し、PR、観光に躍起になっております。歴史と伝統ある那須烏山市には、県内でも誇れる多種多様の宝物、財産があります。どのような手順が必要かはわかりませんが、新聞、週刊誌、テレビ等々に取り上げてもらうことにより、一躍有名にならないかという質問になります。地元の活力源、イメージアップ作戦にどのような方法がいいのか。この2点についてお伺いいたします。

3番目に図書館と郷土民俗資料館の利用状況について、対策についてお伺いいたします。真偽のほどはわかりませんが、ある人は他人の家の玄関に入るとその家庭の状況が読み取れると言います。図書館の利用の高い充実した地域は教育文化の香りの高いまちと言われております。図書館の読書力の高い強い子供たちは、学業成績の高い、低いにつながるもので、大変重要で興味深く、このような観点から質問をいたします。

図書館について、本市には合併前の両町にそれぞれ図書館を有しております。それぞれの図書館には建設時期の早い、遅い、規模の大きい、小さい、立地条件のいい、悪い等の特徴、歴史がありますが、この歴史の違う2つの図書館がより多くの方々に愛され、利用されているのか。利用向上と集館にどのような方策を考えているのか、市長の考えをお伺いいたします。

郷土資料館について、世の中、不況不況不況の一色であります。この不況の中、大相撲の3月場所が開催されるニュースがありました。既に15日間の前売り券全席が完売されたと報道されておりました。人気ということは人の心を変えてしまう魔力があるのでしょうか。この時期に及んでとても信じられないような状況ですが、それゆえ、郷土資料館の運営については、並々ならぬご苦労があるのであらうと考えております。

人気があり、関心のある人は必ず足を運んでいただけると私はそう信じ、入館者を調べると烏山の郷土資料館、平成19年度1年間で201人、1日当たり1人、南那須、平成19年度512人、1日当たり3人、この現状について市長の考えをお伺いいたします。

以上で1回目の質問を終わりといたします。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

〔市長 大谷範雄君 登壇〕

○市長（大谷範雄君） ただいまは6番沼田邦彦議員から、市長の施政（那須烏山風土記）観について、知恵と汗、涙と笑いで地域振興を、そして図書館と郷土民俗資料館の利用状況と対策について、大きく3項目にわたりましてご質問をいただきました。その順序に従いましてお答えを申し上げます。

まず、1番目の市長の施政（那須烏山風土記）観についてお答えをいたします。1点目の昭和26年に栃木県で3つの地名が世界地図の日本版に記述をされている。この事実に対する感想についてであります。率直に申し上げまして、まことに栄誉なことだと思います。先人の皆様方のご功績に対して改めて敬意と感謝の念を表す次第であります。

私は、沼田議員のご質問をいただいたときに、ロンドンのフィリップ社が出版をしたレコード・アトラスという世界地図をこの目で確認をしたいという衝動に駆られました。国立国会図書館を初め県内自治体、県内の大学図書館に問い合わせをいたしましたところ、その世界地図の所蔵が確認できませんでした。わかりましたことは、日本語版でなく英文による世界地図ということだけでございました。今後のまちづくりに役立つ貴重な資料としたいと考えておりましたが、大変残念でございます。

しかしながら、この郷土のすばらしさを市民と共感できる明るい話題であり、改めて市のトップセールスマンとして那須烏山という名前を歴史に残せるよう、市政運営に邁進をしたいと感じたところであります。

2点目の平成21年の小さくてもきらりと光る那須烏山市の状況、想定順位はとのご質問でございますが、議員各位のご理解、ご協力を得ながら策定をいたしました総合計画がスタートいたしまして1年が経過しようとしています。2年目となります平成21年度につきましても、厳しい財政状況下ではありますけれども、緊急経済対策事業を初め、学校耐震化対策事業、道整備交付金事業、子育て支援、障害者福祉、教育の充実等、総合計画に掲げられたまちの将来像であります自然と文化と活力が調和した暮らしやすいまち、そして行政の将来像であります市民の目線に立ち、市民に開かれたむだのない行政の実現に向け、一步一步着実に歩んでまいりたいと考えております。

想定順位につきましては、何を基準にすべきか難しいところでございますが、答弁に苦慮しているところでございますが、民間企業が実施をいたしました自治体ランキング結果がございますので申し上げます。東京の東洋経済新報社の住みよさランキングによりますと、那須烏山市は784市区中695位という結果になっております。このデータは2008年の全国783市東京23区を対象に、面積、人口、世帯数、少子高齢化率、自治体財政力、事業所等経済力、雇用、マンパワー、生活基盤、環境の指標で独自に調査、検証したものであります。

また、日本経済新聞社産業地域研究所の日経グローバル行政サービス度調査によりますと、那須烏山市は746市区中357位という結果になっております。先ほどと同様に2008年全国783市東京23区を対象に、この調査は子育て環境、高齢者福祉、教育、公共料金、住宅、インフラ、この5分野の評価を独自に調査、検証したものであります。

いずれも残念な結果ということでございますが、本市といたしましては市民福祉向上のため、精力的に取り組んでまいりました結果であります、第三者からの評価は真摯に受けとめたいと考えております。何よりも那須烏山市に住んでいる方が、住んでよかったと言えるまち、来訪された方がまた来たいと言っていただけるまちになるよう、今後も努力をしまっている所存でございます。議員各位におかれましても引き続きご理解、ご支援を賜りますようお願いいたします。

次に、知恵と汗、涙と笑いの地域振興の中で、木須大膳の埋蔵金伝説についてであります。この伝説は那須烏山風土記の中に記載されました境地区に伝わる伝説で、これが事実であれば非常に興味がある話であります。

さて、この伝説に登場します木須大膳とは、書籍の中では江戸時代の大久保家の家老であると記述されておりますが、古記録などから烏山城主那須氏の一族でこの地域の領主であった木須氏のことと推測されております。

戦国時代に烏山城の主君とともに茂木の千本城内で謀殺されたとあり、今でも大木須地区に木須大膳館と呼ばれる城跡が残っております。また、八溝山系は、鉱石が採取されることでも知られまして、この地域一帯にも鍛冶屋沢、金場、金掛などの鉱物資源に関連すると思われる地名が残されております。このあたりから推測いたしますと、埋蔵金伝説は地元領主の悲劇と製鉄、冶金などの話が結びつき生まれたのではないかと思います。

現在、この埋蔵金伝説の残る大木須では、地元住民が一体となりましてオオムラサキの里づくり、そば祭の開催などの各種事業が展開をされております。この活動は新聞、マスコミ等にも広く紹介され、市内外から多くの来訪者が訪れるようになりまして、地域振興のモデルケースとして大きな成果を挙げております。

今後にもありましても、木須大膳埋蔵金伝説が地域の方々に活用され、現代の埋蔵金伝説として新たな地域振興の起爆剤になるよう期待いたしております。

図書館と郷土民俗資料館の利用状況対策についてお尋ねがございました。まず、1点目の図書館の利用状況と対策についてでございますが、平成21年1月末現在、南那須図書館の蔵書数は9万9,688冊、烏山図書館6万5,471冊、合わせて16万5,159冊であります。これに対する利用状況は、平成19年度現在で入館者数が6万3,472人、南那須5万331人、烏山1万3,141人、貸し出し冊数15万7,945冊、南那須12万2,

809冊、烏山3万5,136冊でございました。

この利用状況は、那須烏山市が誕生した平成17年度の入館者7万8,909人、16万4,477冊をピークに徐々に減少しております。この原因でございますが、特に南那須図書館がオープン間もなく、施設が新しいことから、合併前に会議室の利用が集中をしたこと、また、オープン当初は新刊図書を抱負にそろえたために多くの利用がありましたが、それらが一段落をして利用者層が固定化をしてきたためと思われま。

このため、平成20年度には、利用状況と所蔵状況を分析して最適な図書をそろえるための選書会議を毎週開催し、子供読書活動推進計画に基づく読み聞かせなど、子供を対象とした事業を充実させるなど、対策を講じてまいりました。

特に、団塊の世代の利用を見込み、これまで比較利用が少なかった成人男性を対象とした図書を積極的に所蔵し、幼児健診とのタイアップ事業や赤ちゃんと親を対象とした教室などの新規事業などを展開してまいりました。さらに、図書の配架方法を工夫して、利用しやすい環境整備にも努めました。

この結果、平成21年度1月までの月平均入館者数、貸し出し冊数は5,487人、1万3,517冊と、平成19年度の5,289人、1万3,162冊と比べて3.7%、2.7%の増加となりました。今後も地域教育の拠点として、市民に親しまれる図書館運営に努めてまいりたいと考えております。

2点目の郷土資料館の利用状況と対策についてであります。南那須歴史民俗資料館や烏山郷土資料館につきましては、南那須郷土資料館が昭和57年10月に茅葺き屋根の農家風建物として開館し、烏山郷土資料館は木造2階建てとして昭和52年8月に開館いたしました。

入館者は議員ご指摘のとおりであります。平成18年度の実績で、南那須歴史民俗資料館が501人、烏山郷土資料館が377人です。平成19年度の実績で南那須歴史民俗資料館が512人、烏山郷土資料館が201人となっております。これらは、市内外の小学生による社会科見学や各種団体の見学等が主でございます。

展示品は第二次大戦直後の生活用品や、古文書、縄文土器等が主なものでありますが、私たちの先代から受け継がれてきた貴重な文化遺産でもあります。

しかしながら、いずれの施設も25年以上を経過し、南那須歴史民俗資料館の茅葺き屋根の損傷等老朽化しているのが実情でございます。これらのことから、現在、公共施設の跡地利用も視野に入れながら、施設運営のあり方につきましては検討していきたいと考えております。

以上答弁を終わります。

○議長（水上正治君） 6番沼田邦彦君。

○6番（沼田邦彦君） 2回目以降、1問1答の質問に入らせていただきます。

市長より一通り答弁をいただきました。一番の（1）につきましては、1番、2番あわせて市長から答弁をいただいたような形になるかと思いますが、いろいろなデータをもとに参考までにランキングも答弁いただきました。

細かい部分に入る前に、先ほど市長答弁の中で地図を知ると調べたくなるという衝動に駆られたとおっしゃっていましたが、全く私も同じでありまして、私の書き方がまずかったのかもしれないですが、世界地図の日本版というその言葉が間違っておりまして、いずれにしましてもそのアトラス社が出した昭和26年のときの世界地図のコピーがここにあります。

実はきょうも傍聴席にいらしていますが、荒井士郎さんという方をお願いをしまして、加倉井先生とお会いすることができました。加倉井先生も本来であれば、きょう楽しみにここに来たいという考えはあったんですが、ちょうど足を痛めていまして、階段ののぼりおろができないということで、くれぐれも皆さんによろしくと言われておりますのでご報告をさせていただきます。

ここに地図を見ますと、確かに英語では書かれておりますが、栃木県の中で3つあります。宇都宮、日光、そして烏山と。例えばこのときの地図が今年度版、平成20-21年度に同じフィリップ社が世界地図をつくと仮定したならば、あくまでも仮定の話です。栃木県であえて3つの地名を想定するならば、1つは首都宇都宮、これは間違いない。1つは世界遺産に登録されている日光、これもほぼ当選確実。そうすると、3番目にランクインされていた那須烏山市、この評価は、その辺の考えをお伺いいたします。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） このフィリップ社の地図ができるということを想定した場合でのランキングの那須烏山市の位置づけということのお尋ねだと思いますが、私も1位は宇都宮、2位がこの日光というところは間違いないところだと思いますが、明治2年7月の版籍奉還の中にある石高ランキングを見てまいりますと、宇都宮は7.8万石、烏山藩が第2位でございまして3万石、これは壬生藩は全く同じ3万石というふうに記されているんですね。そういった意味からすると、歴史的には石高は日光よりも上位でありました。そういうことからすれば、第3位は当然かなということでございますので、私はそのように期待します。

○議長（水上正治君） 6番沼田邦彦君。

○6番（沼田邦彦君） 順番が逆になってしまいましたが、（1）と（2）に共通する項目にもなりますので、あわせた質問をさせていただきたいと思います。

昨日の一般質問の中で久保居議員より菜の花構想がございました。菜の花を日本一にしようという質問の中に、大谷市長も実は日本一にすることは私の夢だと、小さくてもきらりと光るの原点はここにあるという答弁をされておりましたが、今、この現在を考えたときに、この

3年間半で何を光らせてきたのか。いろいろとあろうかと思いますが、3つぐらい挙げていただければと思います。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 3つぐらい、この3年間半の小さくてもひかり輝くまちづくりは何だったか。これを挙げろということでございますので、それではお答えいたしますが、私はこの小さくても光る、やはり全国に発信をできるそういったネタが必要だと思います。そういった意味では、まず1つは、これは内閣府からいただきました特区が2つございます。

まず1つは、ひかり輝く那須烏山市活性化計画、これは安倍内閣のときに内閣府から直接総理大臣から認証いただきました。これは具体的に申せば、道整備交付金であります。事業28億円、これはあの当時宇都宮も認証されましたが、宇都宮は20億円でございますので、県内では断トツトップの事業であります。

2つ目も同じ特区でございますが、これは福田内閣のときにいただきました平成20年度から始まりました英語特区、英語コミュニケーション科の創設でございます。これも内閣府からいただきました。

またさらに、昨年度総務省からの委託事業で、3世代きずな再生による暮らし安心ネットワーク構築プロジェクト、きのうも高田議員からご質問いただきましたけれども、その委託事業に参画をいたしまして、現在までの平成20年度の実績は既にご報告をしておりますが、全国でも大変評価が高い全国で初めてのこのシステムでありまして、委託先の総務省も大変高い評価を得ております。

そのようなことから、このようなところが那須烏山市が発信元になって全国に拡大されるのではないかなという期待があります。これをさらに平成21年度も継続事業として続けておりますので、今、その財源獲得に向けて強い要望をいたしておりますので、私は1億円事業を考えておりますので、そのような要望獲得に今、邁進をしているということでございますので、3つ挙げさせていただければ、やはりそのことになるのかなと思います。

以上です。

○議長（水上正治君） 6番沼田邦彦君。

○6番（沼田邦彦君） 3つ答弁をいただきましたが、最後におっしゃったことは1億円事業とおっしゃったのですか。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 1億円事業を今要望しているということでございまして、したがって、今の第2次補正予算の中で国会で審議をしていただいておりますが、それと平成21年度の当初予算を合わせて、あと既にもう平成20年度は2,500万円の委託事業をい

ただいておりますから、プラス7,500万円を想定をしながら、今その予算獲得に向けて要望しているということでございます。

○議長（水上正治君） 6番沼田邦彦君。

○6番（沼田邦彦君） その1億円事業であります、もっと細かく言いますと、どういった分野、方向性で使われるのか、もし差し支えなかったら教えていただきたいと思うんですが。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） このことも、昨日高田議員のご質問にいただいておりますが、児童の登下校時における安全安心を確保するための携帯電話を利用した子供の見守りと、それを見回る高齢者の健康づくり、さらに防災行政無線あるいはとちぎテレビとの連携のもとに防災情報の伝達、3世代といひまして子供の見守り、高齢者の健康、災害情報、この3点セットを考えております。

○議長（水上正治君） 6番沼田邦彦君。

○6番（沼田邦彦君） 了解しました。

次に、今、ピック3が答弁いただいたわけですが、実はそのほか10年先、20年先を考えて、こんな種もまいているよというマル秘の話がありましたら、ぜひ答弁をいただきたいと思っております。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） まさにこれからの市政を占うにはすばらしい質問だと思います。やはりこれから那須烏山市を10年後、20年後どのようなことになっていきますと、昨日も佐藤議員からご質問いただきましたけれども、やはり環境問題だろうと思います。

したがって、この自然と優しさと親切というようなキャッチフレーズのもとでの総合計画でございますので、そういった10年先の今の自然環境あるいは今のこのような田園風景を残した環境の保全は、後世に引き継いで残していく必要があると思っております。

そのようなことにこの環境問題全般にわたって、あるべく那須烏山市の保全について全力を尽くすことだろうと考えます。

○議長（水上正治君） 6番沼田邦彦君。

○6番（沼田邦彦君） 一番大切なお話を答弁いただいたわけですが、昨日、下野新聞の中で、那珂川の取水口の問題が出ておりました。市長のコメントの部分で細かいことはよくわからないのでノーコメントというようなスタンスのコメントが載っていたかと思いますが、こんなときこそ那須烏山市を考えたときに、市長としての立場で強いメッセージをどんどん出していただきたいと考えておりますが、その辺の答弁もお願いいたします。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 自然環境保全については、那珂川文化ではぐくまれた那須烏山市について育てていくのは当然だろう。そういった観点に立てば、住民感情をよく受けとめながら対応していきたいというようなコメントをしたと思います。そのとおりでございます。

○議長（水上正治君） 6番沼田邦彦君。

○6番（沼田邦彦君） 了解しました。これからも今まで以上に厳しい局面を迫られる場面も出てくるかと思いますが、今、10年後、20年後の夢の部分で環境問題とおっしゃっているわけですから、我々のお手本になるような強い発信を期待しまして、この部分での質問は閉じさせていただきます。

最後に、また関連した質問になりますが、100年に一度とも言われている世界危機の中で、市長は下野新聞の新年の抱負の言葉の中で飛躍の年にするという言葉を使っておられました。県内の市町の中で飛躍の年にするぞと言い切っているのは、恐らく那須烏山市の大谷市長だけだったような気がいたしますが、この状況を考えますと、若干言葉がひとり歩きしているのかなと感じる部分もなきにしもあらずですが、その辺の見解をお伺いいたします。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 俗にピンチをチャンスにという言葉がございますけれども、こういうときこそやはりチャンスだろうと考えております。14市の中で最も小さな那須烏山市が、いち早く緊急経済対策も立ち上げた理由はそこにあるわけございまして、でき得る平成21年度緊急経済対策を施しまして、この市につきましては景気回復を期待するところから、ご審議いただいている114億7,000万円の中でも、繰り越しも入れて12億7,000万円相当の金額をこれに充てたということでもぜひご理解をいただきたいと思いますが、やはりそういったことで、これを好転させる平成21年度にしたいというような思いから、飛躍の年というふうに位置づけさせていただきました。

○議長（水上正治君） 6番沼田邦彦君。

○6番（沼田邦彦君） 栃木県に那須烏山ありという少なくとも先人、先達たちの努力があったわけで、市民が職員がこの思い、理解、認識をし、誇りを持って今を将来に向けて鼓舞していただきたい。そうすることによって、必ず小さくてもきらりと光るときが来るものと私も信じて、この分野の質問を終わりにして次の質問に入りたいと思います。

2番の木須大膳の埋蔵金伝説、マスコミとの連携という部分も関連もしますので、時間の都合上、あわせて再質問をさせていただきたいと思います。木須大膳の埋蔵金伝説についてですが、基本的には私は疑うよりは信じていたいという思いが非常に強いわけではありますが、それは本に対しても人に対しても常にそのような気持ちを持っておりますが、その辺、大谷市長はどのような気持ちをお持ちなのか、参考までにお聞かせいただければと思います。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 加倉井先生からいただきましたこの那須烏山風土記の中で、私も読み返してみましたが、まさにこのような地域がこの那須烏山市内にあったのかということ、さらに思い起こしまして、大変感動いたしております。

それを埋蔵金があるかどうか信じるかというようなご質問でございますが、これは信じたいというふうには思いますが、いずれにいたしましても、それを埋蔵金の伝説があるというような発信をマスコミあるいは報道機関にぜひ取り上げていただく。そういったところが私の役目なのかなと感じております。

○議長（水上正治君） 6番沼田邦彦君。

○6番（沼田邦彦君） 信じるという部分では全く共通していると思いますので、その共通認識のもとに質問をさせていただきたいと思います。これからはホットな話題ですので、少しリラックスをしていただきまして、お願いしたいと思います。

那須烏山市の宝話の中に、宮原八幡宮の斎藤さんという方がいらっしゃるんですが、その家宝として明治の大政治家板垣退助の手紙が保存されていると、この那須烏山風土記に書かれております。何の手紙かといいますと、板垣退助が選挙運動をするのに手伝ってくれという手紙と、そのときのいろいろあったんでしょう、借用書が保存されているとも言われております。こういった日本に誇れる大事実があるということに対しての大谷市長の感想を伺います。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 本当にこの那須烏山市には歴史的な遺産が大変あると思います。山あげ祭を初めとする大変メジャーなものから、そのような比較的知られていないといったところを合わせますと本当に先ほど石高で申しましたけれども、県内でも2番を誇った那須烏山市の当時の威容が十分感じられますので、そういったところを私は本当に誇りだというふうに思っております。そういったところを今後活用しながら、まちおこしの起爆剤とすべきだろうと感じております。

○議長（水上正治君） 6番沼田邦彦君。

○6番（沼田邦彦君） 今の市長答弁のとおり、そういう考えがあるならば、次に進んで郷土資料館はどういうことだとなっていくわけですが、郷土資料館はまた後の話にしまして、観光資源をどのように発信するか。市長の言葉を借りるならば全国に発信ですよ。いろいろ私も私なりに考えております。例えば商工会、観光協会の連携はもちろんです。この木須大膳の話にしても、昨日商工会館で行われた大学生たちの那須烏山市探索、本当に見事なものであります。この最終章に位置づけて、「那須烏山市埋蔵金伝説大木須編」こういったことも企画をこちらから提供し、大学生の連携ももう一つの方法かなと私は考えておりますが、市長は

どのようにお考えでしょうか。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） まちづくり研究会、第3回目になりました。3年目を迎えたということでございまして、過日、発表会をさせていただきましたけれども、いろいろと今までの実績、そして経過、途中のものもございまして、ご報告をさせていただいた中で、そういった大学生の取り組みについての根拠のある報告会というのは、かなり事実性があるといえますか、客観性がございまして、説得力があると思います。

そういったところをIT社会でございまして、ホームページに取り上げながら発信をしていくことも1つの手法だろうと思うし、こういったところが大いにマスコミで報道される。こういったところがこの那須烏山市の知名度アップあるいは那須烏山市をさらに全国に名を広めていく原点なのかなと私はそのように感じています。

○議長（水上正治君） 6番沼田邦彦君。

○6番（沼田邦彦君） だんだん話がかみ合ってきたと思いますが、そういった意味でも、例えばその1つの例として、私が考えるには、人気テレビ番組のなんでも鑑定団というものがあろうかと思いますが、何年か前に馬頭町でもやったんですよね。そのときにも大変好評だったと記憶しております。この際、これを機会になんでも鑑定団城下町那須烏山市スペシャルと勝手に私が名前を考えておりますが、そういったことをどこが窓口になるのか、これからの検討余地はあろうかと思いますが、ぜひ市のほうで旗を振ってこの取り組みを実現していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 大変人気ななんでも鑑定団、あるいはNHKののだ自慢、そういった招致は大変全国的に発信できるすばらしいマスメディアだと思っておりますので、そのような実現化に向けて検討をしていきたいと思っておりますし、また、この財源確保についても大変努力をしながら、実現化に向けて検討していきたいと思っております。

○議長（水上正治君） 6番沼田邦彦君。

○6番（沼田邦彦君） 先ほど来検討という言葉が出ておりますが、先ほども私言ったとおり、言葉を信じるほうなんです。ですから、この検討はやるという前提のもとでの検討だと信じておりますので、なんでも鑑定団にしても窓口をどこにするかという話に当然なってくるかと思いますが、そういった意味でもフィルムコミッションというものがあるかと思いますが、そのフィルムコミッションについて、市長の考えをお伺いいたします。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 栃木県で進めておりますフィルムコミッションについての実績等に

については、後ほど細かくご報告申し上げます。一覧表にまとめてございます。その実績を見ますと、栃木県に入ってきた今までのフィルムコミッションについては、半分以上が那須烏山市で撮影されております。大変ありがたいことで、そういった意味でも『ぼくたちと駐在さんの700日戦争』の映画を見ますと、半分が大体那須烏山市内の風景、建物、歴史的な遺産の中から撮影されていますので、そういった意味では大変ありがたいことだと思っておりますので、さらに栃木県の担当課ともよく連携をしながら、さらにはそういったフィルムコミッションを初めマスコミをこの那須烏山市に入れていただきたいと思いますと考えます。

○議長（水上正治君） 6番沼田邦彦君。

○6番（沼田邦彦君） 実は、先ほど大谷市長の答弁の中で、大谷市長日本一計画の通過点の1つかもかもしれませんが、栃木県で一番になる。栃木県で一番になるということも本当に大変なことなんですよね。たまたま偶然なるということはないと思っておりますが、今現在、那須烏山市が栃木県で一番だと言えるのは、このフィルムコミッションがその1つなのも事実なわけではありますが、立ち上がりの年は一番でしたが、残念ながら2年目、3年目と順番は下がっておりますが、これは映画会社の都合による部分もありますので、来年度、その先に非常に期待の持てる分野だと思っております。

このフィルムコミッションに関しましては、私も烏山高校の先輩である県庁の担当課に行っ
てまいりまして、いろいろとご指導いただきました。そんな中で県の担当課としてもいち早く
那須烏山市のフィルムコミッションは対応してくれている。とにかく栃木県を考えたならば那
須烏山市のフィルムコミッションが一番やっているというお褒めの言葉をいただいてまいりま
したので、それもあわせてこの場をお借りしてご披露申し上げます。

そこで、フィルムコミッションから少し話をつなげていきたいと思うんですが、イコールネ
ットワーク、受け皿、結びつきというキーワードが出てくるかと思いますが、例えば昨日の平
塚議員の質問の中でも田舎暮らしの提案がございました。田舎暮らしをするのに情報が無い、
情報発信ができない、受け皿がないという質問でございましたが、こういった分野も宣伝効果
を含めてフィルムコミッションをもっともっと活用したらどうかという考えですが、お答え願
います。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） まさにそのご提言は建設的なご提言と受けとめます。早速取り上げ
まして、県との連携も図りながらこのことについては取り組んでまいりたいと思います。

○議長（水上正治君） 6番沼田邦彦君。

○6番（沼田邦彦君） 前向きな答弁をいただきましたので、さらに続けますが、私はフィ
ルムコミッション専属のチームをつくってもいいのではないかと考えております。なぜかとい

うと、そのフィルムコミッションから広がる波及効果はものすごい可能性のある分野だと思っております。

先ほどの田舎暮らしのPRにしても、例えば今、小学校、中学校の校舎の跡地は決まっております。決まる間だけでも、映画ロケ専用の校舎としてもっともっと映画会社に売り込むとか、売り込むことによって校舎の近くにあるいろいろなお店があります。食堂にしてもお弁当屋さんにしても、小道具をそろえる文房具屋さんにしても、その間だけでも波及効果というものはあるのかと思いますが、その辺の考えがありましたら市長よろしくお願いします。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 平成19年度のフィルムコミッションの状況については18件の実績がございます。そういった中で、先ほど申し上げました『檸檬のころ』とか『ぼくたちと駐在さんの700日戦争』というのは2時間の映画でございますので、そのところに全国に那須烏山市の情景が浮かんでまいりますと、あるいは烏山線なども入ってまいりますと、映画放映の後の入場者はどのくらいだろうというところも私なりに駅に行ったり、いろいろ聞いてみたんですが、実態はなかなかはっきりしないのが現状であります。ただ、そういったところで銀幕の中に那須烏山市が入るということは事実でありますので、確かにすばらしい媒体だというふうに私も思いますので、最大限田舎暮らし等活用させていただいて、さらにフィルムコミッションを拡大したいと思います。

○議長（水上正治君） 6番沼田邦彦君。

○6番（沼田邦彦君） フィルムコミッションの拡大というすばらしい言葉をいただきましたので、ここの質問を閉じさせていただきまして、最後となりますが、図書館と郷土資料館の利用状況と対策について伺ってきたいと思います。

話は若干戻りますが、昭和26年、地図ができた当時を考えますと、なぜ烏山が世界に名を馳せることができたのかという疑問点、いい疑問点ですけれども、あろうかと思いますが、いろいろとあるでしょうけれども、私の中に、もしかするとその中に、当時人口2万人弱の小さな小さな烏山町に私財を投じて烏山高校と烏山女子高等学校があったという事実もその1つかなと考えておりますが、市長、その辺お伺いいたします。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） そのとおりだと思います。今、大変ご成功なさっております皆さん方、近江商人さんのご先祖が寄与されたということもあります。やはりこの烏山高校、烏山女子高等学校、小さなあるときは2万9,000人ぐらいの人口だったと思います。残念ながら烏山女子高等学校は統合、再編ということになりますけれども、80年の歴史を両男子校、女子校で続けてきたということはこの2万9,000人の町で、後に県立高校となる2つを有

していたというところは、その先人の那須烏山市の知名度を高める1つの大きな礎があったというふうに思います。

○議長（水上正治君） 6番沼田邦彦君。

○6番（沼田邦彦君） そのとおりだと私も思っております。そう考えるならば、小さな町に2校、県立高校があったということは、もしかするとギネスに載ったかもしれない、可能性があったかもしれない。そんな高校が統合した中で、統合跡地も含めて地元の要望という部分では、非常に地元の要望項目が少なく弱かったのかなと私も反省をしているわけですが、市長、その辺の考えをお聞きします。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 烏山女子高存続等のことについては、旧烏山町、南那須町のときに存続要望を出した経緯はございます。確かにこの結果として統合再編ということはなされたわけでございますが、大変私も残念だと思います。結果としてそのようになりましたから、ご指摘のように運動が足りなかったのではないかと問われれば、それは反省せざるを得ませんが、結果ということでございますので、その辺のところはひとつご理解をいただきたいと思います。

○議長（水上正治君） 6番沼田邦彦君。

○6番（沼田邦彦君） 確かに過去をさかのぼっても取り返しのつかないことがたくさんあるかと思えます。だからこそ、これからのこの地域の学力底上げを考える意味でも、この烏山図書館、県立高校のちょうど間に位置しております。合併をして南那須の図書館に足を運んでしまうという、これも理解できることですが、だからといって統合したから2つを1つにするという理論もあろうかと思えますが、その部分についての市長の考えをお聞きします。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 図書館の統廃合等につきましては、地域住民の皆さん、そして議会とも十分に議論を詰めながら対応していくことだろうと考えております。

○議長（水上正治君） 6番沼田邦彦君。

○6番（沼田邦彦君） 合併をしたわけですから、2つを1つにするという当然の理論があるかと思えますが、この図書館においては絶対に2つを1つにする分野ではないと強く考えております。図書館のあり方については、いろいろな学校の先生にも勉強させていただきました。とにかく図書館の利用データの高低が1つには学力の高低にもつながってきますし、もっと大きな目で考えるならば、その地域のバロメーターとなっているのも事実であります。昨日消防の手当の話が出たと思いますが、その高い安いでも、どういうわけかこの図書館の利用率の高低に比例しているわけですね。つまり、今栃木県で元気のある自治体、力のある自治体を見てもみますと、突出して図書館の利用頻度が高いんですね。

そう考えたときに、那須烏山市ももっともっと力をつけなくちゃならない。底上げをするには、南那須の図書館ももっともっと伸ばすと同時に、それ以上に烏山の図書館を利用してもらえるような環境づくりを市役所が積極的に進めなくてはならないと考えておりますが、答弁をお願いいたします。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） まさにそれは同感であります。今、議員ご指摘のとおり、この図書館の貸し出し冊数、利用率は文化のバロメーターでもありますし、これは知的学力のバロメーターになるというふうに私も思います。

したがいまして、旧南那須の図書館の考え方は、とりあえず開設以来5年ぐらいの間に10万冊に蔵書をもっていこうじゃないか。このようなところがございました。先ほど9万9,000冊というご報告をいたしましたけれども、おおむね10万冊になってまいりました。烏山も統合いたしましたして16万冊ということでございますので、この那須烏山市の図書館は他公立図書館と比べますと、ひけをとるものではない。当市はそのように自負をいたしております。

あとは利用率等の問題でございますが、今データを見ますと、お隣の高根沢町は大変高いです。これは県内一でございます。宇都宮よりも高い。しかし、那須烏山市も今の実績は健闘いたしております、県内で後でわかれば生涯学習課長から報告させますが、5、6番に位置していると私は聞いておりますが、今後、さらにそういったことで図書館についてはいろいろなでき得る施策を講じて利用率を高めていきたいと考えています。

○議長（水上正治君） 6番沼田邦彦君。

○6番（沼田邦彦君） 確かに南那須の図書館、本当によく利用されているかと思えます。図書館単体で考えますと、やはり烏山の図書館は栃木県で突出してワーストなんですよ、下から数えたほうが早いんです。旧喜連川町、旧馬頭町、旧小川町よりも低いということは、もしかすると学力も低いのかなとそう考えたくありませんが、データを見るとつながってしまうこともあるんですね。

ですから、この問題においては早急に烏山図書館を盛り上げる方策を練っていただきたいと思っております。その分野で教育長、ございましたらひとつお願いします。

○議長（水上正治君） 教育長池澤 進君。

○教育長（池澤 進君） 沼田議員、よく勉強されていてありがとうございます。また、学校教育に関心を持っていただいて恐縮でございますが、図書館の利用率と学力の相関関係、私も大変不勉強でこれから勉強してまいりたいと思っておりますが、烏山図書館のあり方は問題は議員も既に気がついておられるでしょうが、栃木県で創立は第2番目でございます。非常に歴史のある図書館でございます。恐らくその当時の利用率というのは非常に高かったのではないかと

思っています。

また、南那須と烏山が合併いたしまして1つになって新しい立派な図書館が那須烏山市に誕生いたしました。これは行きやすい、そして明るい、蔵書数も多いという利便性がある、私も活用、利用させていただいています。

これから烏山図書館のあり方は議員おっしゃるように、烏山高校と女子高あるいは小中学校の間でありますから、あそこを勉強するような機能を有する図書館、あるいは若いお母さんやお父さんが子供連れで来られるような特別の機能を有する図書館、そうすることによって、議員おっしゃるように、あそこの利用率は高くなっていくんじゃないかなと。学校帰りに高校生や中学生があそこで勉強しやすい、あそこなら資料がたくさんそろっていて私の疑問が、僕の問題が解決できそうだなというような機能を持つ図書館にできればいいな。そのような考えを持っております。

以上でございます。

○議長（水上正治君） 6番沼田邦彦君。

○6番（沼田邦彦君） 図書館におきましては、本当に私も勉強になる答弁をいただきました。これからの検討課題ではあるにせよ、烏山図書館は基本的にはこれからも残すというよりも、さらにさらに発展させるという考えで市長、よろしいですね。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 教育というのはかけがえのない投資だろうと思っております。したがって、合併以来、教育環境の整備等については十分意を用いてきたつもりでございます。今後もそのような意を継続していきたいと考えておりますので、この図書館も含めた教育分野の全般にわたりましては、さらに拡大、拡充のために邁進をしていきたいと考えております。

○議長（水上正治君） 6番沼田邦彦君。

○6番（沼田邦彦君） 大変貴重な前向きな拡大拡充という言葉が答弁の中にいただきましたので、最後の項目となりますが、郷土資料館の利用状況についてと対策について移らせていただきたいと思っております。

1回目の質問の中で利用人数がとにかく少ない。そのわけはいろいろとあろうかと思っております。昨日、南那須の郷土資料館に行ってまいりました。今、林テレンプ跡地に出たいろいろなものをあそこで整理しているんですね。その中、戦争と生活というスペースがございまして、その中に日の丸にいろいろな方が書き込んだ寄せ書きを目にしてしまいました。その言葉の中で、とにかく命をかけて戦うんだ、最後に必勝〇〇という名前が書いてあったんですが、このいわばそれを提供されている方にとってみれば、形見ともなる日の丸寄せ書きをほこりまみれに、今にもかびが生えそうにしわくちゃになって展示されておりました。この現状に対して大谷市

長、感じるものがあればお願いいたします。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 先人の痛ましい戦争を二度と起こさない、そして恒久平和をこのまちから発信させよう、そのような願いでもっての展示だと考えております。

○議長（水上正治君） 6番沼田邦彦君。

○6番（沼田邦彦君） その展示のあり方が問題だと私は思っているんですね。例えばガラスケースに大切に保管しているとかであればわかりますが、本当にちょっとした棚に置いてあるという現状に対して、私はこれは本当に大変なことをしているなと改めて思ってしまったわけですが、もう一度お願いいたします。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） そのような展示法については、ご提言をいただいたことを踏まえてさらに貴重な提供者の意を逆なですることのないように対処したいと思います。

○議長（水上正治君） 6番沼田邦彦君。

○6番（沼田邦彦君） また、昨日、烏山の郷土資料館にも行ってまいりました。本来やっている日だったんですね。通常営業の日だったんですが、きょうはやっていません。何ですかと聞いたところ、電気代がもったいないからできないんですと担当の方はおっしゃっていました。恐らくこれは担当課の判断ではなくて上層部の判断だろうと思いますが、一言お願いします。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 大変申しわけございません。そのようなことがあったとするならば、まことに遺憾なことでございますので、これは嚴重に注意をして指導をさせていただきたいと思います。

○議長（水上正治君） 6番沼田邦彦君。

○6番（沼田邦彦君） 私が言いたいのは1番の木須大膳に話が戻ってしまうわけですが、今日のこの地域を考えたときに、そういった歴史と伝統を踏まえて今があるわけでありまして、その当時の本当に活躍された方、また苦勞された方の家宝をあそこに預けているわけでありまして。その家宝の重みと電気代、どちらが重いのか、再度お伺いいたします。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 電気代と遺産とどちらか、これは当然言われたとおりはかりにかけられないくらい重いわけでございますので、そういった意を用いて今後とも資料館については運営管理をさせていただきますので、ご理解をいただきたいと思います。

○議長（水上正治君） 6番沼田邦彦君。

○6番（沼田邦彦君） 全く私も同感でありまして、参考までに昨日、私の近所に郷土資料館にいろいろと家宝を預けているという方がございまして、東京から友達をたくさん連れて久しぶりに預けたものを見にいこうと東京からわざわざ来ていただきました。そうしますと、郷土資料館に入れることもなく、本当にかっかりして帰られたという話を聞いて、これはまずいということから、郷土資料館に私は足を運んでいったわけですが、そういったことを踏まえると、正直鳥山も南那須の郷土資料館も今、全く機能していないに等しいぐらいの状況だと思わされますね。

ですから、ではこれからどうするんだと考えたときに、図書館はそれぞれ残してほしいという私の考えですが、郷土資料館はこの際1つにして、例えば夏、山あげ祭を見に来た人が、アユ釣りに来た人が、そのついでに見られるようなそんな体制づくりも必要かなと考えておりますが、市長の考えをお伺いします。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 同感であります。今後の県有地も含めたあるいは市の公共地も含めた跡地利用検討委員会の中で、議員のそのご意見等も踏まえながら検討していきたいと思えます。

○議長（水上正治君） 6番沼田邦彦君。

○6番（沼田邦彦君） 私も本当にそう考えておりますが、さらにもっともっと郷土資料館をアピールするには、そういった観光施設、観光分野と抱き合わせて、それこそ指定管理者を導入したらどうかという考えもございまして、市長の考えをお伺いします。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 図書館、郷土資料館等についての今後のあり方を真剣に検討していきたいと思えます。また今、具体的な運営方法についても述べられましたが、その辺も含めて総合的にあるべく図書館、資料館については、こういった方向だろうというようなところは議会とも相談しながら、また、地域住民の皆さん方の意向も十分尊重しながら、対応を検討していきたいと思えます。

○議長（水上正治君） 6番沼田邦彦君。

○6番（沼田邦彦君） はい。いろいろと質問をさせていただきました。何せデビュー戦なものですから、右も左もわからず足の震える中、質問をさせていただきましたが、議会には議会の立場があります。市長には市長の立場があるでしょう。また、職員には職員の立場があるかと思えますが、それぞれの立場を越えた向こうに郷土愛というものがあるかと思えます。

新年度を迎えるにあたりまして、その辺、再度それぞれが認識をした中で新年度を迎えられると思えます。

これで質問を終わりとさせていただきます。以上です。

○議長（水上正治君） 以上で6番沼田邦彦君の一般質問は終了いたしました。

ここで暫時休憩いたします。

休憩 午前11時15分

再開 午前11時27分

○議長（水上正治君） 休憩前に引き続き再開いたします。

◎日程第2 （議案第1号～第10号）平成21年度那須烏山市一般会計・特別会計・事業会計予算について

○議長（水上正治君） 日程第2 議案第1号から議案第10号までの平成21年度那須烏山市一般会計・特別会計・事業会計予算についてを議題とします。

本案については、去る3月3日の本会議において、市長の提案理由の説明が終了しておりますので、直ちに質疑に入ります。なお、所管の委員会に関する事項については、委員会の審査において質疑されますようお願いいたします。

16番平塚英教君。

○16番（平塚英教君） それでは、平成21年度の当初予算についての質問であります。先ほど沼田議員の質問の中で、フィリップ社の地図の中で烏山が載っているという話なんです。いろいろ市長が問い合わせをしてなかなか見られなかったということなんですけれども、烏山の図書館にブリタニカの本の百科事典があります。これは全国に60セットしかない1つでございます。その中にそのフィリップ社の地図があって、恐らく那須風土記を書かれた方は、その現物を見て、そしてそこに書いたのであろうと私は推測いたします。そういうことなので、図書館に通ってぜひブリタニカ百科事典の本を見てください。

次、質問であります。私の質問は2つです。1つは予算の概要の中で、重点事業の36ですね。行政改革計画の実行ということでもあります。この件に関しましては同僚議員のほうからもいろいろと出されていると思うんですが、これは広域の議会でも申し上げたんですが、これは市議会でございますので、ここでも改めて申し上げたいというふうに思っています。

基本は、行政改革のかなめ、これはやはり住民の皆さん、そして行政に携わっているそれぞれの皆さん、議会、それぞれが自分が主役だと。自分が責任を持ってやらなくちゃならないというふうに思う理解と参加、それが私は行政改革だというふうに思います。そのかなめですね、行政改革の中身でございますが、それは単に経費削減、コストカットをするということだけに

いよというようなことになってはいないかということなんですよ。

確かにそういうところに行かなければ治らないけがや病気はあると思うんですが、いわゆる開業医には開業医の役割があり、そして、こういう地域のへき地の二次救急をやっている病院の役割があり、そして、専門高度病院があるという位置づけの中で、ぜひこの那須南病院で助かるものは、ぜひここで治療してもらいたいというふうに私は思っているんですけども、その辺の行政の側の徹底して守り育てていただくという働きかけがないと、いかに医師が懸命に頑張っても、その範囲内にとどまってしまうのかなと。

関口先生などはすごくまじめな方ですから、自分で専門的な判断ができなければ、ほかの病院、大田原の日赤でもどこでもいろいろなデータやモニターやいろいろなものを送っちゃって、そっちのほうで判断して、そして回答をもらうみたいなことまでやっているんですよ。実際、医療行為はそちらのほうに報酬が行っちゃうものですから、そういう意味でも那須南病院の収益にはならないという問題もあるんですけど。

そういう意味で、お医者さんと医療スタッフ、これはやはりいかに軋轢があっても、何としても地域の医療として守っていただく。しかし、事務経費というんですか、そういうものは相当な努力をしながら、削れるものは削るということでめり張りのある運営の仕方でもって盛り上げていただきたいというふうに思うんですが、その辺の考え方をお聞きしたいと思います。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 那須南病院運営については、私のほうから端的にお答えを申し上げます。私も今の意見はまさに同感でございます。そのような働きかけを都度あるごとにやらせていただいております。那須南病院は公立で存続、これがこの地域に合った最もベストな選択肢だと強く感じております。

そのようなことに向けて、今は1億1,000万円、確かに赤字で5億円の累積赤字が出ているというふうに報じられておりますが、そのような風評被害にならないような形で進めたい。そして、平成20年度からは議会のご理解をいただきまして1億円の円滑運営資金も市から拠出をさせていただいております。そのようなでき得る財政的な支援もやって黒字化にもっていきたいと思います。

今、1億1,000万円になった赤字は、今この医療費抑制という中で3%の医療費抑制策がございます。20億円売り上げても既に6,000万円はなくなるわけですから、そういった意味では赤字はやむを得ないと思っております。また、医師不足もございまして、平成21年度からは14人になるわけでございますけれども、待望の整形外科医が確保できました。言われるように1億5,000万円から2億円の収入が見込めます。

そのようなことで財政状況も好転するものと考えておりますが、さらに、関口院長のお話で

すと、最低16名が必要でございますので、医師確保についてはさらに強い要望をしていきたいと考えておりますので、そういったところで二次救急としての那須南病院は、繰り返しになりますが公立で存続というようなことがベストだということを重ねて申し上げまして、ぜひ議会の議員の皆さん方もそのことについてご理解いただき、ご支援をいただきますようお願いしたいと思います。

○議長（水上正治君） 副市長石川英雄君。

○副市長（石川英雄君） 行政改革の考え方についてお答え申し上げたいと思います。今、平塚議員がおっしゃったことでありますが、職員はむだを徹底的に排除して、その行政の効率的な運営というものは当然職員がやるべきでございますので、そういうものは徹底的に行革を行っていく。そういった経費を削除していくというのが行革の1点でございます。

また一方、行政改革の指針はありますが、それは基本でございまして、時代時代にあって市民のニーズも変わってまいりますので、それはそのときまた、その行革の中の指針にあっても、それらによって方向転換と申しますか、そんなものは当然時代によって改めてまた行政改革を行う、その時代によって改革するというのも1つの方法だろうと思います。

いずれにいたしましても、行政が何をやるのか。また、市民の方が何をやっていただけるのか、できるのか。そういったものは十分市民との対話の中で、また情報提供もしながら行革には努めてまいりたいという考え方でございます。

○議長（水上正治君） 16番平塚英教君。

○16番（平塚英教君） それはぜひお願いしたいんですけども、ややもすると、今の国の公務員改革に見られるように公務員バッシングみたいなことで、単に役所をたたけばいいというような風潮に乗って、そういうふうに見ている方々も多く、私も耳にします。だから、問題はそういう中で、きちんとやっていることについてはやっているんだということを、今までの延長線上ではなくてもっともっと住民の側にPRをし、理解と協力を求める必要があるのかなというふうに思いますので、その点についてももっともっと、特に教育ですよね、職員教育、そういう意味で専門的な研修とか知識を得ることも必要でしょうし、公務員としての全体の奉仕者としての役割、そういう責任を持って、例えば福島県の矢祭の職員などは24時間、役場の職員をやっているようなことで、住民票でも何でも頼まれれば持っていくというようなほど頑張っていると聞いております。

それを本市でやれとは言いませんが、もっともっと職員間で話し合っただけで業務の改善をして、サービス向上ができるものについては率先垂範して進めていただきたいなというふうに思います。

その中で、本年度から行政カレンダーを廃止するというので、お進めになっているかなと

いうふうに思うんですが、これは住民の中にはあんな華美なカレンダーは要らない。その分経費を浮かせるべきだという住民もおりますし、いや、1年間の計画がわからないと、非常に困るということで必要だという住民もいらっしゃいます。

そういう意味で、その辺の整合性をどうするかというのが非常に難しい問題ですが、お金をかけなくて住民のニーズにはこたえていく。これは前から私が言っている話なんですけれども、その辺で、単に広報のどこかのページに載せるとか、あるいはお知らせ版のどこかのページに載せるということではなくて、ちゃんと張ることができるような、しかし、お金はかからないような方法でそういう方法がとれないかどうか。前にも私がそういう提言をしたら、行政カレンダー的なものをつくって自分の自治会に配っている議員もおりましたが、やる気になればそういうふうにはできるんですよ。

そういうことでお金をかけなくても住民のニーズにしっかりこたえる、そういうことをぜひお願いしたいと思うんですが、その点についてはどうでしょうか。これが1つ。

あと、病院問題につきましては、私が言いたいのは、ここの予算の中にはこれは那須烏山市の予算だから、概要には載せないということなんだけれども、命を守るという意味では極めて重要ですし、なおかつ3億7,000万円ですか、ここでは地方交付税を含む本市の負担割合ですが、実質的には2億4,000万円ぐらいかな、市の負担はね。そういうものを投じて那須南病院で地域の医療にこたえようとするわけでありますから、そういう意味ではこの概要に全く載らないというのは、私は信じられないわけであります。

そういう意味で、もっともっと広域の議会で他町の議員が1億1,000万円も赤字出してどうするんだということで、何人もの議員が質問していたようでありますが、逆に1億1,000万円で済んでいるんだと。全国でもそういう公的病院というのは1万5,000あって、7割も8割も赤字なんです。それは民間がそういう採算の合わないところに進出しないために、行政とか広域行政で病院をつくって運営をしている。ところが、医師不足の中で、それがなかなか運営できない。民間病院でさえ4割赤字なんですよ。

そういうことで栃木県内の医療機関を見ても、那須南病院は決してどんどん赤字をふやしているということではないんです。その辺のPRも含めて、もっともっと命と健康を守る拠点としての役割を果たしているのだから、ぜひ市民の皆さんにもご理解とご協力いただきたい、ご支援をいただきたいということでのPRが必要かなというふうに思いましたので、その点についての考え方をさらにお聞きしたいというふうに思っております。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 那須南病院については基本的にそのような考え方を持っております。確かに那須烏山市の予算の概要については、那須南病院という固有名詞は出てきませんが、負

担率も実質的には私どもの那須烏山市が7対3ぐらいで多くを負担しているということもございましたり、どうしても議員ご指摘のように、確たるそして健康、命を守ることとなくなったことを考えれば、これは限界集落ということの想定もできる。そういったことを説明をしながら、那須南病院については徹底した情報公開をして、市民の皆さん方には説明責任を果たしていきたいと考えております。

このことには触れておりませんが、いろいろそのような施策を考えておりますので、ひとつご理解いただきたいと思っております。

○議長（水上正治君） 市長石川英雄君。

○副市長（石川英雄君） 職員の教育も含めて我々公務員についての温かいお言葉を言っていただきましてありがとうございます。それにあぐらをかくことなく、今、100年に一度という経済危機がございます。我々公務員に対する厳しい目が向いているんだろーと思っております。そういったことを真摯に、また、心を引き締めて、我々職員一同行政サービスを向上させていくという考え方で職員もろとも教育して、また実行してまいりたいと思っております。

それから、矢祭町のお話でしたが、昔においても我々職員もそれぞれの地域から来ておまして、大体集落単位、大字ぐらいから来ている職員もいるんだろーと思っております。そういう方、例えば個人情報とかそういうものでできない部分はあろうかと思っておりますが地域の皆さんもぜひ地域の職員をできるものは利用していただいて、わざわざ時間をつぶしたりお金をかけていく必要がない部分で、役所へ行って、できるものは職員にそういったものを頼んでいただきたい。また、そういうところに職員も努めるように、そんな教育をしていきたいと思っております。

それから、行政カレンダーにつきましては、不要、必要のいろいろなご意見もあろうかと思っております。また、費用対効果があろうかと思っておりますが、平成21年度につきましてはそういった方法でやって、また検証して、そういったものの反省を含めて今後の行政カレンダーについても再度検討していきたいと考えてございます。

○議長（水上正治君） 総合政策課長国井 豊君。

○総合政策課長（国井 豊君） 行政カレンダー関係は総合政策課で担当しておりますので補足させていただきます。行政カレンダーの4月から3月までの従来のカレンダーでありますと年間を通してのカレンダーということで、3月末に配布いたしておりました。今回、見直しをさせていただきたいということで考えております。今までの行政カレンダー、3月末に配布するということになりますと、12月あるいは1月から翌年度の事業を各課に調査をいたしまして、それをカレンダーに刷り込むというようなことになっている関係上、どうしても年度途中でその日程の変更、行事の変更等が生じてくるということで、必ずしも年間を通して行政カ

レンダーが100%正確かということになりますと、ちょっと疑問があったというようなこともございました。

そういうことで、今回は今月号から形を変えましてA3判、紙質は若干今までの行政カレンダーより落ちますけれども見やすい紙質で2色刷りにはなるかというふうに思っておりますが、3月10日号に4月のカレンダーを折り込みしまして、壁なりそういう場所に張っていただけるような形でやっていきたい。ですから、毎月前月に翌月のカレンダーをA3判の形で広報なすからすやまの中に折り込んでまいりたいというふうに思っております。

なお、今までのごみカレンダー、健康カレンダーにつきましては、従来どおり発行する予定といたしております。

○議長（水上正治君） ちょっと皆さんにお願いしたいんですが、この総括質疑、多くの皆さんが質問があると思いますので、簡潔明瞭にひとつよろしくお願ひしたいと思います。

3番久保居光一郎君。

○3番（久保居光一郎君） 私も簡潔明瞭に質問をさせていただきますので、簡潔明瞭にお答えをいただきたいと思います。

5点についてお伺いいたします。まず、1点は、先ほど沼田議員から質問がございました。歴史民俗資料館の問題についてなんです、これは答弁の中で入館者数は昨年からだ横ばい、烏山の資料館に至っては減っているわけです。これは1年ちょっと前に、私のほうからも両方の歴史民俗資料館は一緒にしたらどうか。場合によっては山あげ会館の2階あたりに持っていってどうだろうかということをお話をさせていただいたんですが、そういう検討もすべきではないのかなというふうに私は思っていますので、その辺についてどうお考えなのか、お聞きしたいと思います。

2点目が、英語コミュニケーションについてであります。先ほど市長は、きらりとひかり輝く中で3つ挙げていただきたいという沼田議員の質問に対して、ひかり輝く事業は英語コミュニケーション事業も1つなんだということでございました。今年度は2,983万5,000円の予算がついておりますけれども、ALT、平成20年度も7名採用されたかと思ひます。

採用の方法、昨年はある会社にまとめて7人の先生をお願いしたというふうに聞いたんですが、私はやはり先生であれば、各会社に丸ごと何人とかという委託の仕方ではなくて、個別に教えてくださる先生、外国人の先生なんでしょうけれども、一人一人に面接をして、その先生が我々の市のコミュニケーションの授業にふさわしい先生かどうかということをお互いに面接をして、A社がいなければゼロでしょうし、A社何名、B社何名というような形の採用の仕方もあるのではないかな。教師の資質を重んじた採用の仕方があるのではないかと考えておりますけれども、これについてもお伺いしたい。

また、あわせてALTの先生は単年度採用なのか。それとも2年とか3年とか年度にまたがっての採用なのか。それについてもお伺いをいたしたいと思います。

3つ目が、学校評議員制度についてであります。学校評議員制度ができましてからもう10年ぐらいたつかと思うんですが、私、評議員さんに聞くと、1回も開いていないという学校もあるそうでございます。また、開いてもせいぜい1回とか2回とかということで、限られた時間で具体的に意見を申し上げるとかということもできるほどの制度ではないのではないかなというようなことを言われておりますが、こういうことを言うてはあれなんですけれども、なくてもいいのかな。あるのであれば、また違う形で、もっと学校に対して具体的な意見が言える。そういうシステムに変える必要があるのではないのかなというふうに思っております。

4点目は、ホームページのリニューアル事業、これは平成21年度795万9,000円、予算に計上しておりますけれども、まず、ホームページ、これはうちのほうのホームページは残念ながら他市町と比べて今まではお粗末だったのかなというふうに思っております。予算をかけて充実をされるということは、大変結構なことであると思うんですが、これにあたってホームページをつくっていく上において、790万円かけるんでしょうが、今まではどうなんでしょう。1,000人の職員がいたんでしょうか。いるのであれば、やはり毎月書きかえをする。それは徹底的してやっていただきたい。新しい情報は新しい情報を出していただきたい。

もう3年も4年も前の写真を載せてあるのがあるんですよ。イルミネーションなんかそうだったんですが、3年ぐらいい前のやつをずっと何年間にもわたって載せているということもありますので、やはり最新情報を載せるべきじゃないかなというふうに思っております。平成21年度には予算がついたわけですから、そういうことにも十分留意してやっていただきたいと思えます。

5つ目は消防団支援団員制度、これは平成21年度からできて大変結構なんですけれども、この議会が始まったときの答弁の中で、支援団員は地域の災害のときに出勤するんだ、火災のときに出勤するんだというような答弁でございました。これは、分団の区域だけなのか。それとも地域というのは大きくって市全体なのか。

恐らく地域というのは分団の範囲でということだと私は理解したんですけども、支援団員は昼間いないから、団員が出られないからそのときに支援するという部分も含めてのことだと思うんですが、であれば、市内に出てもいいのかなと。消防団の意向を聞かなくちゃ、それを尊重しなくちゃなりませんけれども、そういうことも考えたほうがいいのかな。

それから、後で結構ですけども、消防団員の出勤状況、火災に対して何名出勤されたか。それについても後で資料をいただきたいと思えます。

以上の5点についてお伺いいたします。

○議長（水上正治君） 副市長石川英雄君。

○副市長（石川英雄君） それでは、第1点目の両資料館についてお答え申し上げたいと思います。先ほど沼田議員の一般質問の中でも市長からお答えになっているかと思いますが、この両施設も相当老朽化してございまして、中の展示物もそういったものを展示するというより、建物そのものがほとんど展示をするような施設ではないんだろうと感じてございます。

そういったものの改修が必要なのか、それから新しく公共用地の跡地利用を検討してございますので、そういったものを含めて、これは統廃合も含めて展示物のことを十分検討してまいりたい。今の施設では通気性が悪いとか、貴重なものが盗難に遭うという部分もあろうかと思っておりますので、そんなものを含めて十分跡地利用の中で検討してまいりたいと思っております。

○議長（水上正治君） 学校教育課長駒場不二夫君。

○学校教育課長（駒場不二夫君） 英語コミュニケーション関係について、まずお答えしたいと思いますが、採用にあたっては確かにいろいろな選考の仕方があるかと思いますが、一応5社から見積もり等をいただき、プロポーザル的なことで実際にALTを呼んで、どんなような授業ができるか、そんなものを見ながら選考しているというような状況でございまして、これが確かに個別ということになりますと、どういう方が応募されてくるかわからない。もし、これが悪いときに交替の場合、改めてまた選考しなければならないというようなこと、そういう問題点もございまして。

ですから、そういう派遣業者関係であって、もしあまり芳しくないALTの場合には交換してもらおうとか、そういうこともありますので、企業のほうでも面接をしてALTとして使えるかどうか、そういう判断をした上で採用して派遣をしてくるわけですから、そちらのほうとの信頼関係とかそういうもので、今後とも個別というよりもそんなことで当面いきたいなと思っています。

また、その契約年数なんですけど、一応市としては単年契約を行っております。といいますのは、まだ、始まって間もない時期でありますので、状況を見ながら、今後ある程度落ち着いてくれば3年なり、複数年契約ということも視野には入れたいと考えているところです。

それから、学校評議員関係です。市内では今40名ほど、各学校に5名程度お願いしておりますが、特にこの学校評議員制度というのは、定期的な会合とかそういうものは想定しておりません。学校長の判断で評議員さんのところにお邪魔をしたり、評議員さんが逆に学校に来てお話し合いをしたり、情報提供したりとか、そういうことで、1回も開いていないということは私は信じられなくて、大体報告は来ていますので最低1回はやられているのかなと思っておりますが、そんなことでありまして、あくまでも問題がなければそう頻繁になくても、ただ、校長先生がぜひ相談したいとか、そういうケースがあった場合に評議員さんと個別に、または全員

としてお話を聞きたい場合には全員お集まりいただいとということもあろうかと思うんですが、そんなことでやっている関係で、あくまでも校長の判断、校長の相談役的なことになりますので、有効的な制度かなと思っているところでございます。

以上です。

○議長（水上正治君） 総合政策課長国井 豊君。

○総合政策課長（国井 豊君） 現在ホームページは、各課において更新ができないシステムになっています。ですので、総合政策課において一元的に各課から情報等をいただいて更新をしている状況にございますので、今回、やはりホームページは市の顔でありますので、常に新鮮な情報を提供したいということで、各課どこからでも更新できるようなシステムを構築したいということと、さらに高齢者とか障害者にも見やすい、例えば文字が大きくなるとか、そういうシステム等も現在考慮しておりまして、10月ごろには開設したいと考えております。

○議長（水上正治君） 総務課長木村喜一君。

○総務課長（木村喜一君） 支援団員制度につきましては過日もご説明申し上げましたけれども、16分団41部でございますけれども、出勤域は分団のエリアということでございます。

それから、出勤状況でございますが、いつの。平成19年度でよろしいですか、わかりました。

○議長（水上正治君） 3番久保居光一郎君。

○3番（久保居光一郎君） お昼を過ぎていますので、私のほうからちょっとまた言わせていただいて、答弁は結構でございます。

1番の歴史民俗資料館のことについては、今、副市長のほうから答弁いただきました。昨年と同じ答弁をいただきました。ぜひもっと具体的に統合するのか、それともまた別なところを設けて展示するのか、早い結論を出したほうがいいのではないのかなというふうに思っております。

2番目が英語コミュニケーション、私が言ったのは個人的に面接するというのではなくて、会社のほうから上がってくるわけですね、先生が7名とか5名とか。それは会社を通してのあれですけども、会社から上げられた名簿の先生方は全部面接をして、その中から上位7人ぐらいをうちの英語特区にという意味でございまして、あくまでも雇用を途中で解除する今はやりのあれじゃないですけども、途中で適さないなと思ったら、それは推薦してきた会社を通して言えばいいんじゃないのかな。うちのほうからわざわざ個人のALTの教師にどうのこうのということではございませんので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それから3番目、学校評議員制度、これは1カ月前ぐらいに聞いた話なんですけど、少なくとも2月までは1件も開いていないよという学校があるようでございます。その現状だけをお知

らせたいと思います。

4番のホームページのリニューアルなんですけど、これは私も議会の広報のほうを担当しております。そちらとも関係するのかなと思うんですが、お隣の高根沢町は議会の議事録も全部ホームページに載せてあります。うちのほうもそういう議会の傍聴だけではなくて、可能であればそんなことも、今年度予算をとってあるわけですから、検討していただければなというふうに思っております。

消防団の支援団員制度というのは、これはやはり今の消防団員の出勤回数なんかとも絡んできます。昼間実際にいる定員が五百何がしても、昼間団員は何人なのかとか、いろいろな部分の関係してきますので、後で資料をいただきたいと思います。

以上で終わります。

○議長（水上正治君） ここで暫時休憩をいたします。

休憩 午後 0時06分

再開 午後 1時00分

○議長（水上正治君） 休憩前に引き続き再開いたします。

質疑のある方。18番樋山隆四郎君。

○18番（樋山隆四郎君） 総務管理費、我がまち自慢推進事業とはどういうことですか。420万円ついている。ページじゃなくてこの中に入っていないから。81ページ。

それからもう一つは、コミュニティセンター助成事業、900万円、これは新事業だね。

それともう一つは、農水費の中の農林水産特産物開発事業費補助金、これは何を開発しているのか、これは60万円。一応この事業の内容を説明していただきたいと思います。

○議長（水上正治君） 総合政策課長国井 豊君。

○総合政策課長（国井 豊君） まず、我がまち自慢の事業でありますけど、これは県の補助事業でありまして、2分の1の補助事業でございます。1つは大木須のむらづくり委員会ということで、オオムラサキの公園を中心としましたホテルとか、そういう関係での地域おこしの事業に対する助成でございます。

2点目が、平成20年度も実施いたしましたけど、JR烏山駅前の金井南商店会等を中心としたイルミネーションですね。あの事業が2年目になります。

それからもう1点が、大金駅前からの南那須庁舎付近までの関係での事業を実施する。主にイルミネーション関係でございます。これらが県の補助事業となっております。

コミュニティの関係でありますけど、これは高瀬の自治会の公民館をコミュニティセンター助成事業ということで、直接市を通して高瀬自治会に交付される金額900万円でございますが、

市を經由して助成をいただくんですが、その相手はど忘れしましたので後でちょっと申し上げますが。高瀬自治会に対して交付されるものです。公民館を建設する新築ですね。ですから、事業費としては多分2,000万円近くかかるのかというふうに思われます。自治振興協会、宝くじの基金からの多分助成をいただいて、それでコミュニティセンター、高瀬自治会の公民館の建設に助成金として市を經由して交付するという事です。

○議長（水上正治君） 農政課長中山 博君。

○農政課長（中山 博君） ただいまの農林特産物開発事業の事業内容でございますが、これは古くは旧南那須町時代からの事業でございますが、昨年度は100万円の予算でございましたが、文字通り市の特産物を育成しようという事業で、予定としては1団体20万円程度を考えておまして、3団体を考えております。

以上でございます。（「商品開発は何をやっているの」の声あり）具体的にはこれまでですと、焼酎那須の朝霧とか、ハタケシメジ、マイタケ、そういったものに補助を出してきたところですが、これからソバの生産組合とか、声が上がっているところは興野菜の花部会とか、夏ソバ生産組合、そういったところが立候補というか、上がっておりますので、立候補の数に応じて対応していきたいと思っております。

○議長（水上正治君） 18番樋山隆四郎君。

○18番（樋山隆四郎君） 問題は申請をすれば、団体がどういうふうな形で対象になるのか。面積だとかいろいろ。

○議長（水上正治君） 農政課長中山 博君。

○農政課長（中山 博君） 具体的に細かい規定というものはそれほどございませんので、課内と商工課職員で審査会を開いて決めております。具体的に申請があれば審査をして対象を決めるという形でございます。

○議長（水上正治君） 18番樋山隆四郎君。

○18番（樋山隆四郎君） こういう事業はいいんですが、補助事業とかいっぱい書いてあるんだよ、中身がわからないのがいっぱいあるんだ。こんなのを一々聞いていたら暇がないから後で調べるにしても、この予算の中で、平成21年度予算の概略というか何というか、経常収支比率、これは本来は決算をしなければ出ないですよ。去年もなるのだけど、どのくらい多くなるのか。

それともう一つは、この予算書の中に見ているんですが、債務負担行為が結構あるんです。平成21年度に終わるやつもあるんだけど、この債務負担行為、ちょっと安易に計上し過ぎるのかどうか。今、上がっているのはわかるんです。これなどの検討もよくしたのかどうか。普通の経費の中で見られるのがいっぱいあるんだと思うんです。わざわざ債務負担行為にして

いるけれども、これはそれなりの理由はあるんだろうけど、その理由も1つ説明をしていただきたい。

ここへ来て公債費率も大分上がってきそうなんだよね。公債はことしも結構多く発行しているのか。その辺のところの財政の内容を説明していただきたいと思います。

○議長（水上正治君） 総合政策課長国井 豊君。

○総合政策課長（国井 豊君） まず、財政の指標関係であります。今、議員ご指摘のように、決算してみませんとはっきりした数字はわかりませんが、大体概算で試算をしてあります。まず、経常収支比率でありますけれども、平成19年89.9でございました。平成20年、まだ決算が終わってみませんと、はっきりした数字は申し上げられませんが、推計であります。89.8程度だろうというふうに見込んでおります。

それから、公債費比率ですね。平成19年度が13.5でございます。平成20年が13.9の推計をしております。実質公債費比率ですね、平成19年が15.6です。20年が14.8、若干下がる予定と推測をいたしております。

なお、債務負担行為につきましては、期間を定めてその限度額を設けるということございまして、昨日もいろいろ議論いただきましたけれども、必要なものについてのみの予算計上でございまして、指定管理者に伴いますいちご園、あるいは体験館ですかね、これらについては新たに設けさせていただきました。

ということで、限度額でありますので、あくまでも限度の範囲の中での予算計上ということになりますので、年度配分はいずれにしましても、そういう中できちっと計上して執行していくということにしておりますので、何の目的もなくということではありませんので、ご理解をいただければというふうに思っています。

○議長（水上正治君） 9番野木 勝君。

○9番（野木 勝君） 55ページですが、市営住宅のことで伺います。野上に高峰パークに上がる入りの左側に市営住宅がありますが、この外観、非常に見た目が汚らしくなっているんですが、塗装する予定はあるかどうかを1点聞きたいと思います。

それから、91ページの結婚相談所補助金、去年の45万円からことし72万円に少しプラスになっていますが、去年の実績とことしの計画をちょっと教えてください。

もう1点は43ページの生活保護費について伺いますが、昨年から100年に一度と言われる大不況になっておりますが、それに伴う失業者も大変ふえております。報道によると、失業者がふえたとともに生活保護費の申請者が非常にふえたという報道もされておりましたが、当市ではどういう申請状況になっているか。この3点について伺います。

○議長（水上正治君） 都市建設課長池尻昭一君。

○都市建設課長（池尻昭一君） お答え申し上げます。まず、野上市営住宅の外壁塗装についてのお尋ねでございますけれども、現在、外壁塗装等の計画は持っておりません。ただ、雨漏りとかそういう障害の発生したものについては速やかに補修をして、維持管理にあたっているというのが現状でございます。

以上でございます。

○議長（水上正治君） 生涯学習課長鈴木 傑君。

○生涯学習課長（鈴木 傑君） 若者交流事業の助成金がふえた件についてのご質問でございますが、これは平成19年度の残金があったものですから、平成20年度はその分だけ減額しました助成をしましたので、それを平成20年度事業でお金がなくなったものですから平成21年度についてはまた増額した予算とさせていただきました。

実績でございますが、基本的に結婚まで至るという実績は今のところございませんが、今の青年層の活動範囲が偏ってしまっていて交流が少ないということで、当事業としましては平成20年度におきましてはクルージング事業とお隣のツインリンク茂木での交流事業をやらせていただきました。そういうことで青年の意見を聞きまして、やはり幅広い地域の方と交流ができたという好評のご意見はいただいておりますが、残念ながらそこで結びつきまでの成果ということではあらわれていないことを申しわけないと思っておりますが、基本的には交流事業ということでご理解いただければと思っております。

以上です。

○議長（水上正治君） 福祉事務所長雫 正俊君。

○福祉事務所長（雫 正俊君） 生活保護費についてお答えいたします。

生活保護費の相談件数につきましては、毎年度60件前後で推移をしているんですが、平成20年度につきましては現在80件ということで、平年に比べますとやはり多い傾向になっております。ただし、1月、2月、3月が特に多く約30件程度で推移をしておりますが、その中の明らかに派遣切りによる生活保護の相談というのは現在のところ1件でございます。

以上です。

○議長（水上正治君） 9番野木 勝君。

○9番（野木 勝君） 市営住宅の塗装の件ですが、ちょっとごらんになられたらよくわかると思いますが、本当に黒くなって汚く感じます。大体塗装はどれくらいかかるかわかりますかね、おおよそで結構ですが。結構かかると思いますが。

結婚相談所の補助金について、昨年の参加した人数、わかれば教えていただけますか。

以上です。

○議長（水上正治君） 都市建設課長池尻昭一君。

○都市建設課長（池尻昭一君） 現況は承知しているつもりでございますけれども、今、ご指摘の内容についての見積もりを徴したことがございませんので、ご意見を尊重して見積もりを徴してみたいと思っております。

以上でございます。

○議長（水上正治君） 生涯学習課長鈴木 傑君。

○生涯学習課長（鈴木 傑君） ことしのデータはなかったんですが、平成19年度は28名がクルージングには参加いただきました。ことしの平成20年度事業のデータは後日報告したいと思いますが、平成19年度は28名です。

○議長（水上正治君） 9番野木 勝君。

○9番（野木 勝君） 野上の市営住宅は階段あたりももうぼろぼろになっておりますので、もう一度1回見ていただいたらと思っております。

○議長（水上正治君） 都市建設課長池尻昭一君。

○都市建設課長（池尻昭一君） あわせて確認をし、また補修が必要なのかどうか確認をしたいと思っております。

○議長（水上正治君） 19番滝田志孝君。

○19番（滝田志孝君） 何点か質問させてもらいたいんですが、この予算の概要のほうから4ページに知名度アップ推進事業というのがありますけれども、那須烏山市において何をメインに売り込みをするのか。また、そしてその知名度をどうやって、栃木県自体が知名度がない中で、那須烏山市もそれにどこら辺まで頑張っただけでやっていけるのか。そこら辺のところをまずお伺いいたします。

次に5ページに特定不妊治療費の助成拡大で金額が若干上がっておりますけれども、現在、こういう治療を受けている方が当市においては何人いるのか。来年4月以降どのくらい見込んであるのか。1回の金額、これは結構かかるみたいなんですね。どちらかという、女性ができないよりは、男の人ができない人が多いらしくて、悪戦苦闘していて、男の人は同性ですから聞きますと、医者へ行ってもなかなか子種を出すのは大変なんですよという、ちょっとグロテスクな話なんですけど、非常に大変だということなので、そういう部分がありまして、金額的なもの、時間的なもの、相当労力があるようですけれども、ここら辺の。これは文教福祉か。

それはすみませんでした。次にまちづくり産学官、これも3年、4年ぐらいやっているのかなと思うんですが、私も何回か参加させてもらいまして、各大学の生徒さんたちが映像でいろいろ説明をしたり、烏山に行ってもこういうことがあったのかなというのもあったりしまして、何回か参加させてもらって勉強させてもらったときもあるんですが、現実的にどういう効果が今それであらわれているのか。特に、これがという目玉商品が出てきたのかどうか。そし

て、あとこれはいつまでこういう形で続けていくのか。まず、そこら辺をお伺いします。

それと、商工振興資金貸付事業、これは国、県、市町村挙げて相当お金を、保証協会つきという一般的な保証協会が8割、2割が銀行なんですね、引っかけた場合ですよ。今回は100%保証協会づけですから、銀行は腹が痛まないわけですから、お金を出したらいんじゃないですかと言うんですが、銀行はなかなか出してくれないのが現状なんですね。

いくら保証協会づけ、100%といえども、銀行側にすれば貸したお金が、これは市が当然認可すると思うんですが、どちらかと言えば市が1社1社あたるといわけにいけませんから、銀行にある部分をお任せをして、銀行のサイドで融資をしたり、そういうふうになっている部分が多いと思うんですが。

これは本当にこういう時期ですから売り上げが落ちちゃうと、一定の金額が落ちた場合は貸してくれるんですが、現実あまり落ちちゃうと今度は貸していただけない。何を今やっているかといいますと、5年返済を10年にしたらどうですか。返済額が減れば借りなくてもいいんじゃないですか。ところが実際は違うんですね。今の運転資金が欲しいわけですから、お金を借りなくちゃなかなか厳しいというのが、要は今が欲しいんですから返済はまた別問題の部分があるんです。ところが現実になかなか借りられない。

ここら辺のところはやはり市で指導してもらうか、何か方法を考えていただけるのかどうか。まず、そこら辺のところを現実に申し込んでいる人がまず何人いて、市で何人ぐらい借りてということ把握しているのかどうか。あと金額ベースでどのぐらいというのがわかっているればお示しをいただきたいと思っています。それだけよろしく願いいたします。

○議長（水上正治君） 商工観光課長平山孝夫君。

○商工観光課長（平山孝夫君） まず、まちづくり研究会の成果につきましてご報告申し上げます。先日の一般質問でもありましたように、平成18年度発足しまして、平成18年度は作新学院大学が空き店舗ということで食べ物をやりまして、ある程度その成果は得られております。ただ、その後、空き店舗をほかの事業主の方が引き続きやらなかったという点はございますが、ある程度こういう空き店舗が成功したという事例がございます。

続いて平成19年度でございますが、これにつきましてはやはり主な点といいますと、足利工業大学の近代化遺産、何カ所か認定していただいて、特に境橋には建築学会の認定も受けたということで、境橋とか何カ所かそういう近代化遺産の表示板をつくりまして、具体的には観光客の誘客に努めているということで、何人来ているとかそういう人数の把握はありませんが、ある程度成功したのかなということでございます。

今年度第3年度になりまして、今回はやはり足利工業大学の関係とか国際医療福祉大学の関係とか、小山工専につきましては、稲積城の関係で歴史的文化がすばらしいということで、今

回、首都圏の整備歩道につきまして大型看板を今年度つくるといふことで進めております。

また、稲積城へ行く標識等も何カ所かつくったりしてございまして、今後はある程度まちづくり研究会の成果をもとに、いろいろな方面に発信していきたいといふことで考えております。

またもう1点、今年度は大学プラス市民の方が那須烏山市内のお客様をどのような形で呼んだらいいのかといふことで、非常にアイデアを駆使しまして発表させていただいているところでございます。

今後どうするのといふことで、今回はある程度3年間をやりましたので、事業費も62万円といふことで小さくしまして、基本的にはいろいろな提案を実行していくといふことで、平成21年度は大学を若干絞って足利工業大学、宇都宮共和大学、宇都宮大学、これは女団連の関係で先ほどお話がありました成果をもとに、もう少し内容を濃いものにしていただくといふことで今回62万円計上させていただいております。

続きまして、市の制度融資の関係でございます。これは滝田議員おっしゃるような程度市の制度融資、今まで7,000万円を1億円といふことで、その3倍強超といふことで、金融機関等にもどしどし利用していただきたい。また、企業の方にも積極的に利用していただきたいといふことで、今回は相当金額はふやしております。

具体的に言いますと、特別保証制度の負担金が41万6,000円、次に保証料補助、これが371万3,000円、それに貸付金が1億円といふことで、合計しますと1億412万9,000円といふことでございます。

過去の利用状況についてお知らせ申し上げたいと思っておりますが、ちょっと資料を出しますので。平成20年度の決算見込みといふことで具体的には9,443万円ほどあります。申し込みの業者数というのが……。ちょっと資料が……。

○議長（水上正治君） 農政課長中山 博君。

○農政課長（中山 博君） 13番の知名度アップ推進事業は何かといふご質問かと思っております。これにつきましては、ことし、今まで都市農村交流といふことでPR事業をしてきたところでございますが、新たに那須烏山市を大々的に名前を売り出そうといふ趣旨のもとにこの事業を展開するところでございまして、豊島区などに出向いてのPR事業でございます。

以上でございます。

○議長（水上正治君） 商工観光課長平山孝夫君。

○商工観光課長（平山孝夫君） ただいまは大変失礼しました。平成19年度の信用保証料の補助の状況でございます。運転資金、設備資金両方合わせまして22件で、貸付実行額が7,669万円でございます。続いて平成20年度でございますが、これは11月末現在でございますが、運転資金、設備資金合わせまして17件、貸付実行額が5,569万円でございます。

以上でございます。

墨田区の関係でございますが、これは平成19年、平成20年ということで、東京の大田区に那須烏山市の製造業活性化委員会が主体となりまして、日立テクノフェアということで市の工業関係者が参加しまして、ビジネスマッチング等を開きまして、今回は那須烏山市の産業物産フェアイン東京2009ということで、具体的には新事業創出事業ということでその目玉商品としたいということで、農業、商業、工業関係が連携しまして、市内の特産物、伝統工芸品等工業製品を一堂に集めまして、市の特産物のPRとあわせてまして消費者の企業間相互の情報収集によりまして、市のPRに行きたいということでございます。

具体的に言いますと、年2回、今回は墨田区でございまして、この墨田区ものづくりの会社がたくさん集まっているということでございまして、今回、墨田区の産業会館をお借りして年2回、1回は6月の下旬、観光でいいますと山あげ祭等のPRもあわせましたり、秋は逆にやはり10月にやはり同じようにこれはイルミネーション等の観光PRをあわせまして、いろいろなただいま申しましたように農産物の展示即売、また特産品、郷土料理の即売とか、山あげ祭りのDVDの放送とか、いろいろな形で進めるということで、現在、計画をしております。

特に、これにつきましては墨田区の広報紙を活用していただいたり、関東経済産業局の活用、インターネットで配信をしていただいたり、また、栃木県のホームページにも載せていただけるということで、県に現在後援団体をお願いしているということで大々的にやりたいということでございます。

以上でございます。

○議長（水上正治君） 19番滝田志孝君。

○19番（滝田志孝君） そういう中では、知名度アップを大々的にやりたいということなんです、やはり東京へ行っても一部の部分でそんなに範囲を広くできないのが現状でしょうから、その一部分でPRをする、コマーシャルするしかないと思うんですが、やはり逆も真なりで、全国で一番知名度の薄い栃木県、その中でも一番小さな市那須烏山市、そしてキャッチフレーズ、きらりと光る那須烏山市とか、そういうものをずっと連判で入れて、やはり何かその中で1つ覚えてもらおう。

やはりほかの県、市町村で知名度のあるところと同じようなコマーシャルをしてしまいますと、なかなか難しいんですね。逆も真なりですから、やはりちょっと話がそれますけれども、いつも言いますが、役所の中でもこういうアイデアを出しなさい、ああいうアイデアを出しなさい、いいものを出しなさい、出ないんですよ。悪いものを出しなさいと言えばいっぱい出てくるんですよ。要は結論はそれをやらなければいい。悪いものをずっと書いています。それをやらなければいいんですから。そういうことを考えれば、何も難しくない。

ですから、まずいいことを考えることは難しい。まず、逆も真なりで、そういう1つの考え方ができるかどうか。そこら辺も役所ですから、考えていただいて、それなりにやっていただきたい。そう思っています。そして、少しでも那須烏山に足を運んでいただける、または興味を持っていただける。そういう人をふやしてもらって、将来的にはこの地に住んでいただけるのが一番いいのかなと思っていますので、よろしく願いをいたします。

それと、このまちづくりの産学官、これはなかなか現実的に絞ってやっていく。目的を決めて、例えば平成21年度は何を目的にやる。平成22年度は何を目的にやるということでない、3つ、4つやっているのも非常に結構なことなんですが、どうも焦点がぼけちゃう気がするんですね。これは一緒にやるんだから、みんな集まってもらって1回に見せるのが一番いいことなんですが、逆にそういう時期が過ぎてきたのであれば、もっと掘り下げて1つのものでこういうものでやっていこうというものを考えたほうがいいのかなと思うんですが、そこら辺の考え方はいかがでしょうか。

それと、商工振興資金、金額が具体的に出たんですけれども、那須烏山市、特に烏山は私も職種が違うのでよくわからないんですが、零細企業の工業製品をつくっている下請、孫請、場合によるとややもすると曾孫請が結構多いらしいんですね。何でなんだろうと話を聞いたときに、昔、メグロがありましたですね。それで組合員が労働闘争を起こして、一説によるとですよ、自分たちで自分たちの会社をだめにしちゃったようなところがあったりして、そういう方が今もずっと同じような形で仕事をやっている。

ですから、そういう部分でいうと、それは昔の話ですから、そういう中でずっとやっている人がいるとなると、そういう方が今でも継続してやっている。そうになると、そういう会社があるので、自動車産業、またはいろいろな機械の工作の下請、孫請が多いんだという話をちょっと聞いたんですね。

これだけものづくりがだめになって90何%も生産性が落ちてきたという話になったときに、返すのも確かに大変なのは大変なんですね。ですけれども、やはり借りなくちゃやっていけない。本当に経営者は今、テレビではないですけれども、自殺者がもっとふえるんじゃないかという、3万人を超えるのではないかという時代ですから、ぜひとも一説によると保証協会は今、栃木県の足利銀行さんの分ぐらい全部保証しても保証協会はパンクしないんだと、お金を持っているんだと。こういう話も一説にあるんですね。これはトップが言うんですから間違っていないと思うんですが。

そういう中では、やはり保証協会が100%もつということですから、各銀行に負担がかかってこないのであれば、ぜひとも市の指導で広く、深くか浅くかわかりませんが、困っているところに親身になってお金を出すような方法をとってもらおう。銀行とよく話をしていた

だきたい。そして、地元の業者を少しでもけがのないようにしていただきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 私からお答えをいたします。最後の保証協会、そして銀行の貸し渋りの問題ですが、昨年の12月の拡大協調をやるというように決めた際に、銀行にもそのような要請は担当者のほうからやらせているんですが、確かに気持ちはよくわかります。そのようなことで、銀行筋も足利銀行の轍を踏まないということもあったものですから、そのようなことで財布のひもは固いのでございますが、私どもは保証協会でもつということになりましたから、議員ご指摘のとおりだと思います。さらに規制、そういったところを軽くしてもらって、ぜひ柔軟性のある対応関係をつくっていただくよう私のほうから再度要請をしております。

それと、知名度アップ事業なんですけど、今、逆も真なりというご提言がありましたけれども、今、その拠点を墨田区、そして豊島区に考えておりますが、確かにそうだと私も思います。例えば私どもの北限の国見のミカンがあるんですが、今、やはりミカンも甘さを追求するあまりに、果物等については甘いミカンがおいしいというふうな風潮になりがちでございます。しかし、国見は最北限のミカンということもございまして、そういった意味では日本一酸っぱいミカンだよということでも売り出したらどうだというようなことだろうと思います。したがって、そういった地域の持つ特産品のよさ、その事実をそのまま那須烏山市が伝えるというような形をとりたいと思います。

またさらに、まちづくり研究会ですが、3年の報告の中では私はそれなりの実績が上がったと見ております。これからこの那須烏山市の観光策定ビジョンを委員長も決まりまして立ち上げるわけでございますが、その礎の1つができたのかなというところで、まだやはり実績を上げるまでには至っておりません。したがって、観光ビジョン、そういったものを那須烏山市がつくるにあたっての基礎の一部が、このまちづくり研究会によってできたのかなといった認識でおります。今後の具体的な施策の基礎部分ができたのかなというところで実績が上がったのかな。私はそういう理解でおります。

○議長（水上正治君） 15番小森幸雄君。

○15番（小森幸雄君） まず、平成21年度当初予算の総括ということでありまして、どうしてもこの場で聞いておかなくちやならない問題だけを絞ってお聞きしたいと思っておりますが、まず、この予算編成にあたって、市長はどういう点に意を用いて予算編成にあられたのか。これは3日の提案理由の説明で大体おっしゃったんですが、いかんせん5時過ぎのもう帰りたい忙しい時期の説明だったもので、十分頭にたたき込まれなかったものですから、ちょ

っとどういう点に意を用いて、また目玉はどのような目玉だったのか、この経済対策だとは思いますが、その点について再度お願いをしたいと思っております。

その中で3点ほど予算関係でお聞かせいただきたいと思えます。まず、サタデースクール関係であります。実はきのう高校受験でしたね。当初予算にもあります544万4,000円載っていますが、こういう中で、本市の中学3年生は何人このサタデースクールに参加をして1年間やってきたのか。できれば各中学校ごとの人数もお示しをいただきたい。

そういう中で、教育長の胸の中には、この受験した子供たちが希望した県立高校に全員入っていただけるのが希望としてあると思うんですが、このサタデースクールの手ごたえですね。手ごたえがあったのかなかったのか、この辺についても聞きたいと思っております。

それと、スクールバスの関係でちょっと聞きたいんですが、実は皆さんにご案内が来ていると思うんですが、3月8日、136年の歴史を興野小学校が閉じるわけでありまして、ぜひ議員の皆さん、そして執行部の皆さんにご参加をいただいて、地域の歴史を思い起こしていただきたいという思いでありますので、どうぞご出席をいただきたいなど、ここでお願いを申し上げたい。

さらに、直売所関係で何かイベントを考えているようでありますから、どうぞ皆さんに参加をいただいて、さらに皆さんにご指導をいただきたいという中で、このスクールバスに入りますが、実は1週間ぐらい前、バスが那須ニコンから中道通りを試走していましたね、教頭先生が乗って。七合小学校までの通学路、何分かかって、ここで何人乗って、待機所がどうかこうとか、七合小学校までに何分かかるのか、試走だと思えます。

そういう中で、このバスを選定する根拠といいますか、お願いをするにあたってこれは一般競争入札で指名をしてやったのか。あるいは七合小学校のスクールバスの今回の興野小学校の閉校に伴う事業費、スクールバス関係でお幾らぐらいこの1年間に経費がかかるのか。予算書にはどこに出ているのか私はちょっとわからないので聞きたいのですが、その辺をお示しをいただきたいと思っております。

次は緊急経済対策の中に、ありがたいことに畜産関係に飼料高騰分のトン当たり200円の補助を考えている。これ、6万3,000トンを限度にとということではありますが、6万3,000トンの数字の根拠はどこから持ってきた数字なのか。畜産、ニワトリ、豚、肥育、酪農ありますから、この飼料の絶対量ですか、平成19年ベースなのかあるいは平成20年1月から12月までの数字が市全体で6万3,000トンという数字になったのか。その辺についての6万3,000トンの算出根拠もお示しをいただきたいと思えます。

以上であります。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） お答えいたします。私のほう的那須烏山市の平成21年度の予算の編成にあたっての基本的な考え方でございますけれども、一口に言えば、今、議員もご指摘のように緊急経済対策及び2年目にあたります総合計画の実施計画を実現化するための予算であったと、このように一口で言えると思います。

特に、その中でも引き続き社会保障分野と言われる教育、福祉、医療また保健、そのようなところを重視したことに加えて、さらに地域住民の皆さん方から大変要望の多い道路整備網の予算に充てた。そのようなことが特徴であると思います。

さらに、緊急経済対策の中での農林水産業費のところでございますが、詳細の数値的なものについては農政課長に答弁をさせたいと思いますが、今回の緊急対策につきましては、基幹の農業にも目を向けたというのもこの緊急対策の予算の特徴になっております。

また、これも単に酪農関係、畜産ばかりでなくて、米の自給率アップ、また、さらには遊休田の解消策、またさらに、学校給食を通じた特産品の買い上げ、そういったところを中心に予算づけをまいりました。

したがって、そのようなことで本市の農林業の回復が一日でも早くできますような予算づけ、このようなところが特徴になっていることをつけ加えさせていただきます。

○議長（水上正治君） 学校教育課長駒場不二夫君。

○学校教育課長（駒場不二夫君） まず、サタデースクール関係であります。今年度平成21年度も例年と同じような予算額を計上させていただきました。それで、中学生の参加状況、各学校ごとにということでありますので、今年度平成20年度2月に閉校をやったばかりなので、学校名までもしということであれば、下江川中学校4名、荒川中学校4名、烏山中中学校65名、七合中学校25名、小・中校合わせて190名の参加があったということでございます。

それで、きのう受験があったわけですが、それらの関係につきましてはこの人数でもごらんのように全体で39%、そのくらいの参加率でございますので、これがすべて高校受験にどう反映するんだと言われても、ちょっと難しい問題かなと思います。

ただ、閉校式などに行ってみますと、子供たちが講師先生と別れを惜しむあの姿を見ていると、結構みんな一生懸命やっていたんだなど。指導主事もただ受付とかではなくて、教室に入って講師の指導、子供たちの指導というよりも講師の指導とか一緒にやっていますので、その点なんか今までも随分違うなという印象を私どもも持っています。それなりの成果はあったのかなと思っているところでありますので、ご理解いただければと思います。

それから、スクールバスの関係です。地元に関しては大変ご理解いただきまして、何とか閉校式を今度8日、スクールバスのほうも4月の始業式には間に合うように今準備を進めている

ところでありますので、ぜひご理解いただければと思いますが、これらの業者の選定につきましては、一般競争入札ではなくて、3者による見積もり合わせということで実施をさせていただきました。

これは今までの経過もあって、それと運行委託でありまして、もし事故があった、故障したといった場合に、地元業者のほうが対応が便利ということでもあったり、地元育成という部分もありまして、今までの実績、信頼性、そういうようなものを見て選考させていただきまして、決裁行為で、来年度についてはまだ年度予算を審議中でございますので、ただ、事前に準備しておかないと間に合いません。4月8日から間に合いませんので、事前にお伺いを立てながら準備を進めているということをご理解いただきたいと思います。

これらの問題につきましては、学校教育課だけの問題ではございませんので、全般的に委託業務ということは先ほど言ったような理由で、今後庁内の全体調整の中でどんな形が不信を招かなくてできるのかなど、そんなことも検討はしていきたいと考えているところでありますので、ぜひご理解いただきたいと思います。

以上です。

○議長（水上正治君） 教育長池澤 進君。

○教育長（池澤 進君） 私のほうにも手ごたえということでお尋ねですので、お答えを申し上げます。小森議員、振り返ってみていただきますと、15歳のあの春、進路を決定するとき大変な猛烈な勉強をされたことを思い起こしていただければと思います。今、のど元過ぎれば熱さ忘れるで、あの苦しみはもう既に忘れ去って今日あるのではないかと思います。学習は同じことの繰り返し、何度も何度も同じことの繰り返し、あるいは違った先生に教えていただく。あの先生のとときによく覚えられたとか、深い知識を獲得したとか、また、新たな学習の場で新たな学力を勝ち得たとか、恐らくあったのではないかと思います。学校あるいは塾、家庭教師、もろもろの場で議員、知的な学力を獲得されたのではないかと思います。

今、子供たちは親と将来の高校進学について三者面談を中心に進路を決定いたしますが、今はどの家庭も子供たちが最終的には進路決定をするような時代になりました。ある中学校の例ですが、18校の高等学校に昨日自分の将来の生き方を求めて受験に参加いたしました。そういう意味からいろいろな学習の場を設ける1つとして、市ではサタデースクールを設けた。それには今、駒場課長がおっしゃったように、あの別れの場面を見ても私はこれを実施してよかったと。したがって、この結果には大きな手ごたえがあったということで答弁とさせていただきます。

○議長（水上正治君） 学校教育課長駒場不二夫君。

○学校教育課長（駒場不二夫君） 先ほど年間の経費が漏れてしまいましたので、大変失礼

しました。58ページに各学校の運営費、その中で含まれている形になるんですけども、予算ベースで2台スクールバスを入れますので、1,040万円ほど計上しております。

○議長（水上正治君） 農政課長中山 博君。

○農政課長（中山 博君） ただいまの質問で、緊急経済対策の中で飼料の量の算出根拠は何かというご質問でございますが、これはJAからの平成19年度の実績と聞いております。ただし、JA以外から飼料を購入している農家もございますので、この補助の対象としてはこちらも対象にしたいと考えております。

以上です。

○議長（水上正治君） 15番小森幸雄君。

○15番（小森幸雄君） 冒頭の平成21年度の予算組みについてどういう点に意を用いたかというのは、今市長から申されましたので、これは了解しますが、このサタデースクールですね、ちょっと意外だなと思ったんですが、もともとはこれは旧南那須町で先んじてやった事業ですよ。そのときは下江川中学校、荒川中学校一緒にやったんでしょう。それが荒川中学校4人、下江川中学校4人で、烏山中学校65人、七合中学校25人という数字を見ると、旧南那須はもう何年もやっていて大体その経過が出てきた。それはいい意味でサタデーまでやらなくても何とかなるという形なのか、あるいはやってもむだだったという反省点で少なくなっちゃったのか。その辺わかりませんが、いずれにしろ手ごたえがあったということですから、この受験を前にしての土曜日の授業、これは平成21年度も続くわけですが、この辺、どういうふうに言ったらいいのかわかりませんが、あまりにもばらつきは納得しづらい部分もあるのが正直な私の考え方でございます。

そういう中で、昔何十年か前の話を今、教育長にされましたけれども、確かに私たちが中学3年生で高校受験のころ、補講とって、先生が放課後交替で国語、数学、理科、社会、英語、この5教科ぐらいは補講で対応していただいた思い出があります。そういう中で、何とか踏ん張ってふるいのところにかすかに残って、今、地域で生活をさせていただいているというのが我々の年代だと。

今は専門的に土曜日に集めてやっていただけるのは非常に時代の変った風景かなと思うんですが、これからこれも平成21年度も続くわけですから、どうぞもう少し経費をかけるのならば、参加率をもう少しふやしていてもいいのかなと思います。

スクールバスに入りますが、今、課長からの説明で3者見積り合わせという話でありまして、それにはいろいろな理由があるようではありますが、約1,000万円有余の経費を1年間にかけるのであれば、公平性、透明性という観点から、公平は地域の事業者になればそれは公平かもしれませんが、やはり見積り合わせではなくて競争入札で、きちっとした数字で請負

契約を結ぶのが筋だろうと思いますので、これらについての考えを再度聞かせていただきたいと思ひます。

最後になります、この緊急経済対策の関係で畜産関係の6万4,000トンの数字であります、JAだけ、農協だけの数字ではちょっと不足する部分があると思ひますので、よくこれは畜産農家と連携をとっていただいて、どこから購入しているのか、商社系なのかあるいはJAなのか、酪農協なのかというのがありますから、その辺をよく精査をしていただいて、後で不満が出ないように、不満というのはもらった農家ともらわない農家が出たら、せっかく効果が上がると思ひてやった事業もあべこべの結果になりますから、どうぞ慎重に対応していただきたいなとお願いを申し上げて、2回目の質問を終わります。

○議長（水上正治君） 副市長石川英雄君。

○副市長（石川英雄君） スクールバスの選考についてのお話ありがとうございましたので、私のほうから統一した見解でお話し申し上げたいと思ひます。今、小森議員おっしゃったように、当然公平性、透明性を保つのは当然でございますので、それはしっかり守っていきたく思ひております。

一般競争入札で市内以外も含めてやるのか、市内の中の条件つき一般競争入札にするのか、それから、指名競争入札するのか、それから、業務委託でございますので、いわゆる提案型と申しますかそのバス会社のどういったサービスをして、どういった方向で回るのか。そういうことも一部教育委員会さんとそれはよく相談しなくてはなりません、そういったサービスの面のこともあろうかと思ひます。ただ、単なる金額だけでやるのか。

そういうことではなく、そのサービス面も一部含まれる場合はこれは提案型の見積書をいただいてプロポーザルでやる、そういう選考法もありますので、そういった業務の内容を十分精査して、その3つ、4つの中のいずれか、これは今後決めていきたい。十分検討してまいりたいと思ひます。

○議長（水上正治君） 学校教育課長駒場不二夫君。

○学校教育課長（駒場不二夫君） サタデースクール関係です。この参加者のばらつきにつきましては、事務局のほうとしても懸念をしているところでございまして、一部には課題としては場所の問題とかいろいろあるんだろうと思ひています。また、個人的に塾に通う、あとはどちらかというスポーツのほうにどうしても力を入れたいということがありますから、その年その年によっても違ふのかなと思ひていますが、それぞれ先ほど言ったような課題もございまして、毎年実施する場合には、宇都宮大学の先生も入っていただいたり、運営委員会を開いていますので、そこらでも十分議論をして参加率の向上にも努力をしていきたく思ひております。

○議長（水上正治君） 農政課長中山 博君。

○農政課長（中山 博君） 現在、畜産農家は市内に120戸ございます。養鶏、養豚、肥育ですね、酪農、そのほかに企業系がございますが、先ほどのご質問のように、もらうもらわないの不公平が出ないように対応していきます。

以上でございます。

○議長（水上正治君） 15番小森幸雄君。

○15番（小森幸雄君） 最後になりますが、スクールバス関係の今の副市長からの答弁がありますが、サービス面も十分考慮しながらという、これは、こうこうこういう条件でやれば一般競争入札できるんじゃないですか。サービスがどうのこうの、事故に遭ったときとか、パンクしたとかという問題もあるようですが、やはりそれは請負業者がすべてそういう対応をクリアするがために参加するとも思いますから、ぜひこれは、3年に1回更新するそうですから、そのときには見積もり合わせなんていうことではなく、競争入札できちっとすっきりした形にすべきだと思います。

緊急経済対策の補助金の関係はわかりました。ぜひそのように私が心配したことがないようにやっていただきたいとお願い申し上げます。

最後に、サタデースクールの参加人数100名不足で544万4,000円ものお金を投じて、教育長は効果があった、手ごたえがあったと、今年度については。来年度は何人参加するかわかりませんが、この辺ももう少し参加人数がいっぱいいればいいという問題でもないよと思うんですが、そのばらつきですね。烏山地区が多くて、旧南那須地区がたった8人しか参加しないようでは、果たして市は一生懸命になって、皆さんの税金から何とか次の世代を担う子供たちのためにという、その意味が薄れてしまうような気がしますから、どうぞこれらについても慎重に対応をお願い申し上げて終わりにいたします。

○議長（水上正治君） 副市長石川英雄君。

○副市長（石川英雄君） スクールバスの選考につきましては、今、小森議員がおっしゃったとおりでございます。サービスと申しましたのは、先ほど定時に運行して、それから当然安全面を注意して、万が一があった場合にはどうするんだということも含まれておりますので、そういったものが指名競争入札の中で十分条件を付してやれば、これは問題ないということになりますので、その際は条件付き指名競争入札に付するというで十分そういうものに配慮してまいりたいと思います。

○議長（水上正治君） 学校教育課長駒場不二夫君。

○学校教育課長（駒場不二夫君） サタデースクールは、中学校ばかりではなくて、小学校の6年生も実施しています。大体同じぐらいの人数で合わせて200人程度ということであり

ます。これでも全体の4割をちょっと切っているような状況でありますので、今後それらの向上もあわせて検討していきたいと考えております。

○議長（水上正治君） 12番大野 暉君。

○12番（大野 暉君） 私は行財政改革特別委員会のメンバーの1人なんですが、1年ちょっと前に、我々は補助金、負担金、交付金等の見直しをやるべきではないかという中で、話し合った経緯があります。ですが、検討委員会というものがあって、その結果を待つてということの中でそのままずると今日まで来てしまったわけなんです。

しかし、その中での話では、だれもが一致していることは、この補助金は場合によっては倍額ぐらい、例えば極端な話なんです、ふやしてもいいじゃないかと。そのかわり切るところは思い切って切るべきだ。これはほとんどの委員の意見だったわけでありまして。

そういった中で、ちょっと2、3点お聞きしたいんですが、83ページにある那須南病院の840万円減額なんです、これは運営費と括弧してありますが、赤字の中でこういう減額というのは、おやと思ったんですが、これをちょっとお聞きしたい。

次に85ページ、飼料価格高騰対策支援事業補助金として新たに1,260万円計上してありますよね。これはたしか去年あたり一時高騰したと思うんですが、今円高により非常に安くなっているのではないかと私は思うんです。例えば卵なども今は非常に安く、こんな安くていいのかなと思うほどの価格で売っておりますし、また、私もエビなどを使うわけですが、そういう中でも大体5,400円から5,500円したやつが今4,000円ぐらい、そのぐらい円高によって安くなっているんですね。ですから、そういった中で、これはちょっと考えてもいいんじゃないかなと思うわけです。

それにあと一つ、91ページなんです、山あげ保存会に660万円計上してありますが、去年と同じなんです、私はこれはできたら市長にお尋ねしたいんですが、200万円ぐらい上乗せしていただけないかと思うわけです。と申しますのは、非常に今不景気な中、6町あるんですが、当番町以外はつけ祭りということで小屋台を出しているんです。その小屋台を出すのにも確かにみんなやるところは自治会からいろいろとお金をいただいて、その中で約100万円ぐらいかかるんですが、そして、運営しているというのが現実なんです。

しかし、過去2回ほど全6町が大屋台を出したことがあります。あの大屋台を出して、駅から行進をやった。あのときの2回のあれは今までになくものすごく大きな観光客も来、そして経済効果として相当のものがあつたかなと思うんです。ですから、私が200万円と言いますのは、当番町以外のところが5町あるわけです。そこにも大屋台があるわけなんです。今、非常に人不足、若衆不足の中で、そういったのを確保するにはやはりそのぐらいのお金は最小限度かかってしまう。

しかし、あの大屋台、今つくとすれば数億円かかるわけですよ。そういったすばらしいものが6年に一度ということではほとんど皆に見せることができないで、そのまま来てしまっている。全町が大屋台を出したときにはこんなすばらしいお祭りは今までに見たことないという、かなり私もよそから来たお客さんからも聞いたわけなんです、やはりこの不景気なときこそ、思い切った形の中でそういうものやってもいいんじゃないのか。

例えば山あげ祭もそれにこの南那須でやっているいかんべ祭もそうなんです、いかんべ祭も320万円ですか、これも思い切ってもう少し上げてもいいんじゃないか。と申しますのは、この2つの事業は活性化の中でも一番大きな目玉の、市としての事業だと思うんです。ですから、そういう中で、思い切ったものをもう少し考えていただければいいんじゃないかなと思うんですが、その点についてお聞きしたいと思います。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 今、終わりの部分でございますが、山あげ保存会、いかんべ祭等の補助金を大きく増額したらというご提言であります。山あげ祭の合併直後のお祭りの際に、たしかあのときは泉町さんが当番だと思いましたが、大変協力的にあのときは合併直後の1つの記念といたしまして、6台の屋台を駅前から行列をしたらどうだというようなご提案もしたつもりであります。そのときはいくばくかの百二、三十万円だと思いましたが、その経費を負担をした記憶がございます。

そのようなご提言かと思えます。確かにあのときの実態は大変多くの観光客を魅了したというふうに覚えております。また、いかんべ祭も320万円、前年並みの予算を計上させていただいておりますが、去年もいろいろこの予算の問題につきましては大きな課題があったんですけれども、そういったところでご提言として大変ありがたいご提言だと思います。

当初このような平成21年度予算をつけさせていただきましたので、昨日、樋山議員にもお答えをいたしましたように、運営補助金につきましては、基本的にゼロベースで新たに平成22年度から構築したいというお話をいたしましたけれども、それとあわせてそのようなまちづくりの活性化とも言える補助金等につきましても、再検討させていただくというようなことをご理解をいただきたいと思えます。

○議長（水上正治君） 農政課長中山 博君。

○農政課長（中山 博君） 緊急経済対策の飼料価格のご質問でございますが、現在、各畜産農家が購入しております飼料価格はトン6万5,000円前後しております。そんな中での200円という形で今回計上してございます。これが多いか少ないかという議論はあるかと思うんですが、先ほど申し上げた120戸の畜産農家の幾らかの支援になればということで計上してございます。

以上です。

○議長（水上正治君） 総合政策課長国井 豊君。

○総合政策課長（国井 豊君） 広域行政事務組合の病院費負担金の関係であります、843万2,000円の減額でありますけれども、那須南病院の負担金については二通りございます。繰り出し基準、いわゆる経常経費に必要とします補助金、それから、建設改良ということで病院を建設した当時の負担がございます。建設改良分については8割が那須烏山市、2割が那珂川町という形になっておりまして、その中でも交付税算入分というのがありますので、経常分と交付税算入分との2つに分けて那須南病院に対しましては交付をしております。

そのうち交付税算入分、これは500万円減額であります。というのは、毎年度の借金の返済分が減ってきているということがあろうかと思えます。そのほか、経常分で300万円ありますが、これらにつきましては病院内の経営の改善に努めた結果、補助金が300万円減少したということでありますので、経営内容が若干改善したというふうにもとれるかと思っております。

○議長（水上正治君） 12番大野 曄君。

○12番（大野 曄君） 那須南病院も了解しました。お祭りのあれなんです、私は初日、補正予算の中、クリアしてしまった件なんです、商工会での金券1億円、そこへ1,000万円上乗せするとして1億1,000万円で購入していただく。これは非常にいいことだなと思うんですが、ちょっと反対したいと思う点は、ほとんどあれの場合にまちの商店には使われないで、大きなベイシアさんとかたいらやさんとかいう大きなところに8割、9割行ってしまうのかな。

そうしますと、1,000万円市で投資したのに、その費用対効果を考えたときには非常でないのかなと。そういう中なんです、山あげ祭も非常に厳しい中、寄附金を集めるのもこれからだんだん難しくなると思うんです。ですから、そういう中でのためにも、ぜひとも考えていただきたいということをお願いして質問にかえさせていただきます。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 繰り返しになりますが、山あげ祭、そしていかんべ祭、そして冬のイルミネーションは私どもの三大のまちおこし、あるいは地域活性化のお祭りも兼ねた最大の行事だというふうに位置づけておりますので、ぜひこのようなことも補助金のあり方についても検討させていただきたいということで、ひとつご理解いただきたいと思えます。

○議長（水上正治君） ここで暫時休憩いたします。

休憩 午後 2時21分

再開 午後 2時31分

○議長（水上正治君） 休憩前に引き続き再開いたします。

まず最初に、野木議員の質問に対して鈴木生涯学習課長から答弁をいたします。

生涯学習課長鈴木 傑君。

○生涯学習課長（鈴木 傑君） 先ほど若者交流事業の平成20年度の実績ということで資料がございませんでしたので、おくれて申しわけございませんでした。本年度、ふれあい交流事業につきましては、クルージングのほうには40名参加いただきまして、もう1点、講演会もやらせていただきまして、そのときに34名の実績であります。

以上でございます。

○議長（水上正治君） それから、総務課長から支援団員の活動エリアについて、認識にちょっと違いがあるかもしれませんので、もう少し詳細な説明をいたします。

総務課長木村喜一君。

○総務課長（木村喜一君） 先ほど久保居議員のほうから、消防団の支援団員の活動エリアの関係で話がありましたけれども、ちょっと私の言葉が足りなかったせいか間違った理解をされてはいけないということで、再度説明申し上げますけれども、各消防団には活動エリアというものが決められておりまして、自分の分団以外にも出ていくということになっております。

ただ、支援団員はあくまで消防団、部、分団を組織しております地域だけの活動ということでございますので、通常の消防団活動の範囲までは支援団員は及ばないということでございますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（水上正治君） 質疑を受けたいと思います。

7番佐藤昇市君。

○7番（佐藤昇市君） それでは、私は3項目簡単にお聞きしたいと思います。

まず、平成21年度予算の中で、那須烏山市総合計画に基づいて作成されたと書いてありますが、その那須烏山市のまちづくりプラン第1期総合計画の中で、平成21年度の予算に繰り込まれないものがあつたのかどうか。計画の中で平成21年度の予算の中で削除したものはあるのかどうか。また、なくても入れたものがあるのか。その1点をお聞きしたいと思います。

13ページの歳入、個人法人市民税の滞納繰越分、個人に対しては400万円、法人に対しては30万円、これは平成20年度のときも載っていますが、平成19年度も多分ずっと同じ数字だと思うんですね。その経過はずっと載っているということですから、それはそのままこどもも載っているんですが、どうなっているのか、内容的にお聞きせ願いたいと思います。

また、固定資産税ですね、これは平成20年度900万円が滞納で繰越があつたと思うんですが、今回は500万円だということでございますが、400万円の徴収ができたという理解

でいいのかどうか。

あと1点は、57ページの熊田診療所の件についてお聞きします。熊田診療所は長年島田先生がやっておられまして、今度新しい先生が来て新しい形態で始まったとなっておりますが、その中で、歳入歳出、昨年より859万円減っておりますが、歳出をずっとみると診療の報酬なんていうのは、患者が来る収入などがあまり変わらないんですが、どういうことで歳入歳出が減額になったのか。

また、この中の一般管理費の中で、私、ちょっと勉強不足で申しわけないんですが、区分というのがありますよね。そういうことで、平成20年度を比較しますと、賃金とか平成20年度と平成21年度の各欄の値段がべらぼうに違うとか、書き方が違うとか、私には理解できないんですが、どういうふうに区分を決めて、平成20年度は給料、職員手当等なんていうのは平成20年度はゼロとか書いていないんですね。今回は578万円、職員手当が1,249万円とか、賃金に関しては686万2,000円が、昨年は3,600万円ということで、値段的にどうなのかなということでお聞かせを願いたいと思います。

以上です。

○議長（水上正治君） 総合政策課長国井 豊君。

○総合政策課長（国井 豊君） 総合計画の実施計画関係についてお答えいたします。

総合計画につきましては、平成20年度、ご承知のように初年度でございました。実施計画につきましては、基本計画を実施するその手法として実施計画が作成されておまして、実施計画については毎年ローリングという形をとっております。

今回、当初予算を編成するにあたりまして、議員がお示しいただきました実施計画の内容をすべて見直しを行いまして、当初予算にすべて反映をさせているということでありますので、100%までちょっと中身を今精査中でございますので、見直しをしました内容の計画書については、また後日議員の皆さま方に配付をしたいというふうに思っておりますが、大方網羅されているものというふうに思っております。

なお、逆に前倒しをして予算計上しているものも中にあるということをつけ加えておきたいというふうに思います。

○議長（水上正治君） 税務課長高野 悟君。

○税務課長（高野 悟君） 市税の関係の滞納予算額でございます。個人の住民税400万円ということで計上しております。滞納繰越分に対しての当初予算での計上でございますが、3月の補正でもそれで結果的に徴収ができた分プラス補正ということで1,000万円プラスしたわけですが、平成20年度、その補正の関係もありますけれども、当初予算400万円、それから平成21年度も400万円ですが、平成20年度の3月見通しがついたのが1,

600万円徴収できたということで、当初予算の段階では400万円をとりあえず計上しておいて、結果が徴収できたというところで3月にプラスした。結果で予算額をふやしているというのが現実です。

それと同じように法人につきましても、当初予算滞納繰越分30万円ということでございますが、平成20年度もやはり当初は30万円ですが、2月末現在の数字がきのう出ましたので新しい数字で申し上げますと69万円徴収できております。そういったことで固定資産税等についても当初予算で滞納繰越分はある程度の大まかな数字といたしますか、それで結果的に徴収できた段階でプラス補正、予算額を補正するということが通常やっているというのが現状であります。

固定資産税だけ数字を申し上げますでしたが、平成20年度の滞納繰越分900万円で計上しておりましたが、おかげさまをもちまして2月末現在で4,800万円徴収いたしました。

○議長（水上正治君） 市民課長鈴木敏造君。

○市民課長（鈴木敏造君） 熊田診療所の診療報酬が対前年比大幅に減額しているというご質問だと思います。要因として2つあるのかなと思っております。1つは、先生が変わりますと患者さんとの信頼関係とかそのような関係の再構築になりますので、若干診療収入は減る。昔から医療現場では先生に患者さんがついていくという表現がされております、昔からですよ。私は医者じゃないものですからわかりませんが、そのような表現が医療現場ではよく申されているということだけご理解いただきたいと思っております。

もう1点は、診療収入関係で今まで2週間単位で出していた薬を4週間単位で出すような方向で、去年の4月の診療から主にそのような方向に変わってきておりますので、前はたしか血圧の薬ですと大概2週間だったと思うんですが、今、4週間ぐらい出ていると思うんです。ここで診療報酬として月1人当たり2,770円ぐらい減るのかなということもございますので、これらの要因が複合的に絡んだのかなというふうに思っております。

2点目の140ページの区分の節の問題でございます。これにつきましては、今まで島田先生は年齢の関係で臨時職員ということで賃金で計上しておりました。今度の先生は職員として雇用しておりますので、我々職員と同じような給与構成に変わってきたということで、この節の内容が変わってきた。それと、この欄の支出の合計額が減少しているのは、率直に申し上げます、前の先生と今度の新しい先生との人件費の差が大きい。全部とは申しませんが、大きいということでご理解いただきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（水上正治君） 7番佐藤昇市君。

○7番（佐藤昇市君） 診療所に関しては理解しました。熊田診療所に関しては先生が変わっ

たということで私も患者の方に聞いてみますと、やはり慣れないせいか、島田先生が長かったという経緯もあるんですが、やはり意思統一というか、人間ですから何回も行けばその先生が好きになるのと同じで、まだ、来たばかりだということで、島田先生のほうがいいんだよなんていう話も聞くんですよ。それは個人的なものですから、どうのこうのはありませんが、人それぞれですから。

しかし、新しく変わったといっても、後々はまた地域の核となってやってもらうのがいいと思うので、そこら辺も含めて市長も新しい先生によくご指導できればなと思いますが、市長の答弁を願って終わりにします。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 昨年の7月から島田先生に変わりました。有我医師が着任をさせていただいておまして、大変優秀な先生であります。そんなところで私のところにも3件ぐらい、はっきり言いました。不評が飛び込んでまいりました。それは事実であります。

そうは言いますが、先生とまだ直接私はお話をいたしておりませんが、この熊田診療所の位置づけ、そして熊田診療所のへき地診療所としての理念、こういったものはこの決算を機に私とざっくばらんにお話をしてみたいと考えております。また、そういった不評の後に、ざっくばらんに仲介をしていただいた市民の方が間に入ってくださいまして、そのような不評の実態も実は伝えてあります。

したがって、今どうだということになれば、大分改善されたよというような評価を聞きますので、私は大変そういった意味では先生も着実にこの熊田診療所の経営理念というものをわかっただいて、それに向かって邁進していただいている。このように私は感じ取っております。

○議長（水上正治君） 1番松本勝栄君。

○1番（松本勝栄君） 新年度予算ということで何点かお聞きしたいと思います。まず最初に来年度予算にあたって市長の答弁がありました。総合計画に基づいて、本年度の予算をつくりましたということと、重点政策ということで何点か挙げられました。私はまず最初に、道路事業に対して8億円ちょっと入れていますということ、これは何年か続いていますから今年度も引き続きということなんですが、これは私の持論をいつも言っているんですが、道路はお金を生まないんですね。確かに便利になるんですが、そういうところではぜひどんどん削っていくべきかなと思っております。

それと、教育、福祉、医療、子育て支援、そのあたりの福祉全般については、やはりこれは最低限やらなくちゃならない。そこがやはり大事ではないのかなと思うんです。その中で、まず、緑のほうの13ページの4番活力あるにぎわいのまちづくりということであるんですが、

私は総務の委員ですから、別のところをちょっと言いたいと思うんですが、畜産振興費、畜産基盤、あと重点事業が何点か並んでいますけれども、こんなのでは私ははっきり言いますと、活力のあるまちづくりが本当にできるのかなと思っています。市長の答弁をまずお願いしたいと思います。

この厚いほうで17ページ、社会教育使用料、保健体育使用料、これは公民館はただだけれども、体育館はいろいろな形でお金を取られているということをいろいろ聞いています。参加者の中に75歳以上の方を何%含んでいけば何%引きになるみたいなことを、ちょっとよくわからないようなことをやっているみたいですので、できたら、取らないほうがいいんじゃないのかな。夜間使えば照明灯だけでもらいますとか、何かいろいろな検討方法があるのではないかなと思いますので、その辺の答えもお願いしたいと思います。

次に、19ページの汚水処理施設設備交付金、対象基が何基なのか、何十基なのか、何百基なのか。それで、処理の対象は高度処理、三次処理まで含まれているのかどうか、その辺の答えをお願いしたいと思います。

次に49ページなんですが、よくわからないんですが、藤田の体験むら、いちご園、ぱん工房等の補助金がどこに入っているのかちょっとわかりませんものですから、お願いしたいと思います。

次に51ページ、一般観光施設整備費450万円載っていますけれども、これは主なものが何なのか、内容等をお願いしたいと思います。

最後に83ページの下から4行目、敬老会交付金、交付金ということになっているんですが、これは時限的にやめなくちゃならないんじゃないかなと私は思っているんですが、市長はどのように考えているのか。どんどんどんどん右肩上がりですべていけますので、5年後でやめるとか、そういう考えがあるのかどうか。それと、交付金のほうは出ているんですが、祝い金事業費のほうはどこに入っているのかお聞きしたいと思います。

以上です。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 平成21年度的那須烏山市予算の概要につきましては、先ほど小森議員に答弁をしたとおりでございますが、緊急経済対策及び総合計画の2年目の実施計画といったところを加味した積極予算である。このようにご理解をいただきたいと思っておりますし、その中でこの総合計画の活力のあるまちづくりについては、その施策の部分でございますので、そのようなことを実現化する予算でございます。ひとつご理解を賜りたいと思っております。

そして、この敬老会75歳を今基準といたしまして、75歳以上に引き上げさせていただきました。合併協議会の事務事業の中では、旧烏山、旧南那須町、まちまちでございまして、

75歳ということでお招きをするということになったわけでございます。また、補助金等についても、80歳から5年ごと、100歳以上が10万円だと思いましたがけれども、そのようなことに改めさせていただきまして、一律78歳以上5歳刻み、このようなところで敬老祝い金を支給させていただくということでございますので、これも同じく平成21年度には計上させていただいております。

○議長（水上正治君） 生涯学習課長鈴木 傑君。

○市民課長（鈴木敏造君） 社会体育施設の使用料と社会教育施設の使用料の関係のご質問でございますが、現在、社会教育施設、公民館でございますが、社会教育団体からの使用については使用料を無料としておりまして、社会体育施設のほうは有料ということで、差があるじゃないかというご質問でございますが、基本的に使用料につきましては、使用される方が全市民が一体となる行事の場合は無料という考え方で、あと一部の団体ご利用になるというのは有料というのはよろしいんじゃないかと思えます。

ただし、今の段階で社会教育団体の育成時期に入っておりますので、無料にしているということでご理解いただきたいと思いますが、社会体育のほうはスポーツ少年団とか育成団体については無料という形でやっているということで、一般的に活動が安定した団体につきましては今後料金をいただく方向づけを持つという方向が行政としてはスムーズな運営になるかと思えますので、発展途上の段階にあるということでご理解いただきたいと思えます。

○議長（水上正治君） 上下水道課長荻野目 茂君。

○上下水道課長（荻野目 茂君） 汚水処理交付金の関係でございます。平成21年度につきましては130基を予定してございます。ちなみに平成20年度の実績は136基でございますが、これは5人槽、7人槽、10人槽の組み合わせが単価の安いほうに集中したものですから、このような数字が出たということでご理解を賜りたいと存じます。

それと、3次処理の関係でございます。浄化槽につきましては、建築基準法第31条の2で、国の認定を受けた市であれば、通常のものであれば、それは可能でございます。ただし、補助金につきましては定額ということで交付してございますので、あとは設置される方の水に対する環境意識の差なのかなと思料されます。

以上でございます。

○議長（水上正治君） 農政課長中山 博君。

○農政課長（中山 博君） 指定管理者のパン工場の款項目節はどこかというご質問でございますが、ページで言いますと、この予算書の48ページ6目になっておりますが、この説明欄の中に都市農村交流施設運営費1,032万2,000円のうちの900万円でございます。予算上ですね。

以上でございます。

○議長（水上正治君） 商工観光課長平山孝夫君。

○商工観光課長（平山孝夫君） 51ページの一般観光施設整備費450万円でございますが、これは首都圏自然歩道整備事業第2年度ということで、具体的には450万円すべての金額でございます。具体的に言いますと、龍門の滝、観瀑台の転落防止柵整備、またベンチの整備、また散策道の滑りどめということでございます。ちなみに、これは補助が50%ということで、歳入が22ページにありまして220万円ほど歳入を計上しております。

以上でございます。

○議長（水上正治君） 健康福祉課長斎藤照雄君。

○健康福祉課長（斎藤照雄君） 敬老会関係のご質問ですが、大体市長お答えのとおりでございます。39ページに載っております。高齢者福祉事業費でございます。ちなみに中身は100歳に到達した人は10万円、80歳から5歳刻みで到達した人が1万円、ちなみに100歳到達の方は来年は10人おります。

以上でございます。

○議長（水上正治君） 1番松本勝栄君。

○1番（松本勝栄君） まず最初からいきますと、市長の答弁の中で継続してやっていかなかちゃならないということですので、やむを得ないのかなと思っております。ただ、やはり活力のあるにぎわいのまちづくりということですので、やはり農林、畜産、商工業含めて、もうちょっと補助金なり予算をもっと組めるような本当に活力あるような予算の組み方、今年度は2年度ですので、3年、4年、5年とローリングしていくとは思いますが、さらにその後の5年とかあると思うんですが、含めてぜひ考えていただきたいと思っております。

それと、体育館等の使用料については、一部団体は有料だということですが、もうちょっと精査していただいて、75歳の方が3人いて、70歳の方が2人いて、トータル5人いて、その場合は8割だとか、何かそういう難しい計算もしているという話をちょっと聞いていますので、もうちょっとわかりやすくしていただきたいということのお願いだったんです。それについてもう1回お願いしたいと思っております。

浄化槽については去年度と同じですね。そういう意味ではいいと思うんですが、3次処理というのはよく言われていますように、私どもの市も平成19年、平成20年ということで環境政策等審議会をつくっているわけですから、仕入れ値が同じようでしたら、3次処理ができるような高度処理できるような浄化槽もこの予算内でもしかすると収まるんじゃないかなと思っております。お聞きしたわけです。その辺をもう一度お願いしたいと思っております。

藤田の体験むらについては、これは違うと思うんですが、900万円ということをおっしゃられた

んですが、プロポーザルで出されたのは450万円ぐらいだったと思うんですが、もう一度答弁をお願いしたいと思います。

次に、一般観光施設についてはわかりました。

敬老祝い金制度については、祝い金交付金として900万円ですね、そのほかに先ほどの70歳以上、10歳刻みぐらいで出すのが何万円でしたっけ。かなりなっているんですが、ことしは特に100歳の方が10人ということですので、10人ですと200万円になってしまうわけですね。その辺を市長、もう一度時限的にどのように考えているのか。もう一度お願いしたいと思います。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 総合計画は先ほどご指摘のように、4番目に活力のあるにぎわいのまちづくりと題しておりますが、居心地のよい安全なまちづくりから、むだのない自立的な行政経営、大きく8項目についてのまちづくりを展開をいたしております。いずれも表現は違いがあれ、この那須烏山市にふさわしい実施計画を載せていることとなりますので、全般的な項目から総合計画を実施計画として平成21年度、2年目の実施計画として執行いたす予定でございますので、ぜひそのこともご理解をいただきたいと思っております。

なお、高齢祝い金等につきましては、そのようなことで2年前だったと思いましたが、そのように改変をさせていただいたわけでございます。したがって、平成21年度も前年同様の施策で対応させていただきましたが、補助金等の検討もきのうの一般質問、いろいろとご質問いただいております。したがって、総合計画も毎年毎年実施計画は見直すことといたしておりますので、そういった中で検討していきたいと思っております。

○議長（水上正治君） 生涯学習課長鈴木 傑君。

○生涯学習課長（鈴木 傑君） 体育施設の高齢者の使用料関係でございますが、平成21年4月から規則改正の手続をとっているんですが、65歳以上の方が8割を超える団体につきまして、使用料を減免したいと考えております。

以上です。

○議長（水上正治君） 上下水道課長荻野目 茂君。

○上下水道課長（荻野目 茂君） 3次処理に対する関係でございますが、ご質問の趣旨は水環境に対する熱い思いということで大変貴重なご提言ということで受けとめさせていただきたいと存じます。

現実的な対応といたしまして、浄化槽の補助金は国、県、市町村がそれぞれ3分の1ずつ均等負担しているのですが、近年、県はその3分の1をカットしまして、従来の補助率の8割程度しか補助金を交付してくれない。こういう状況でございますが、その分を市が肩代

わりしているという状況でございます。ですが、市の環境基本計画もできたことすし、また、さらなる設置につきましては、そういうことで設置者への要請を努めていきたいと思っております。設置義務の3次処理化につきましては、今後議論の中で検討させていただきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（水上正治君） 農政課長中山 博君。

○農政課長（中山 博君） パン工房、いちご園につきましては予算上900万円の限度額で説明しているところですが、プロポーザルを経まして500万円ということで現在仮協定になっております。常任委員会の決議をいただきまして最終的に議決をいただければ、本協定となりまして、6月議会で一般財源400万円の減額になるということになります。

以上でございます。

○議長（水上正治君） 1番松本勝栄君。

○1番（松本勝栄君） 最後です。祝い金事業ですね、これは平成20年から県内でも矢板市と藤岡町は廃止しておりますので、その財源はどこに行ったかということ、子供たちの将来の希望のほうに回すんだとかいうことで、両市長とも市民もしくは町民の方に理解をいただいているということなんです。

私どもも、右肩上がり昭和32年生まれまでどんどん上がっていきますから、どこかで切らなくちゃならないということですので、先ほど市長から答弁がありましたように、来年度補助金等のゼロベースから始めるということですので、ぜひその辺でお願いしたいと思います。

以上です。

○議長（水上正治君） 4番高德正治君。

○4番（高德正治君） 私からは2問質問させていただきます。

1つは山あげ祭なんですけど、先ほど同僚議員から補助金のほうは出ましたが、私はその上の実行委員会、その辺の組織面で、もうちょっと活力を入れるためにも組織のメンバーの見直しとか、そういったものが必要ではないかなと思っておりますが、その辺の実行委員会のメンバー、そういった組織、その辺をお聞きいたします。

あと、また今年度予算化されています食の回廊事業、その辺の内容もお聞かせ願いたいと思っております。

○議長（水上正治君） 商工観光課長平山孝夫君。

○商工観光課長（平山孝夫君） 山あげ祭の山あげ実行委員会の組織の点につきましてはですが、6町内厳密には城東まで含めますから7町内も入るんですが、そこの自治会長さん、また、若衆さん、また、若衆さんを卒業といいますか、終わりました中老さん、それが実行委員会の

組織ということで入っております。

山あげ祭は毎年毎年若衆の関係とか、先ほど大野議員からもお話がありましたように補助金の関係、非常に難しい面はあるんですが、ここ3年ほど前からもう少しやり方を何とかできないものかということで、実行委員会の中に3つの部会を開いて年に3回、4回、検討会を開いております。

またこの後、議会が終わりましたら、十何日だかちょっと日程はど忘れしたんですが、早速新しいお祭りにつけて実行委員会を開く予定になっております。

以上でございます。

○議長（水上正治君） 農政課長中山 博君。

○農政課長（中山 博君） 栃木の食の回廊づくり事業の件でございますが、これは県が音頭をとりまして、県内各振興事務所単位で地域に合った特産物を材料にして、回廊、道路とか回遊とかそういう形をつくって、地域の振興を図ろうという事業でございますが、当地域におきましては、八溝そば街道ということで、過日立ち上げたところです。

実際の運営とかはこれからになりますが、隣の茂木町から大田原市につけて、そのような振興を図っていきたいということでございます。

以上でございます。

○議長（水上正治君） 商工観光課長平山孝夫君。

○商工観光課長（平山孝夫君） ただいま組織の件ですが、ちょっと説明漏れがありまして、保存会長さんとか、観光協会長さん、また警察の署長さん等も入っております。失礼しました。

○議長（水上正治君） 4番高德正治君。

○4番（高德正治君） 山あげは特に大きなお祭りですから、地域の皆さんに振興できるような組織、そうすると今の組織だとどうしても小さな組織になりますから、自治会あるいは地域の農産物をつくっている方とか、地元の生産者とか、そういったものが入って那須烏山市全体としてのお祭りになるようなそういったバランスが必要ではないかなと思うんですが、メンバーというのはその辺ではちょっと小さ過ぎるのではないかなという気がするんですが。

食の回廊はある程度案があれば、どの辺の街道を中心にまたは特産品としてはどんなものがあるのか、その辺もお聞かせ願いたいと思います。

○議長（水上正治君） 副市長石川英雄君。

○副市長（石川英雄君） 先ほど休憩時間に大野議員とも山あげ祭の話をして、ちょっと市長が言えない部分があるかと思っております。また、課長も言えない部分があるかと思っておりますので、私のほうから若干私的なことも入るかと思っておりますが、コメント申し上げたいと思います。

ただいまの実行委員長は市長がなっているわけでございます。高德議員、十分ご承知かと思

いますが、山あげ祭は旧6町で輪番制をとって何百年の歴史と伝統があるわけでございます。したがって、それぞれ6町のお祭りのやり方とか運営の仕方がまちまちでございます。当然ご承知かと思えます。

したがって、今、山あげ祭実行委員会、実は旧烏山時代はその日にちを変更することが第1目的に実行委員会を開催してございます。したがって、そんなことを含めて今も実行委員会があるわけでございますが、実際、市長が実行委員長となっても、お祭りを市長が仕切っているかということになると、実はそうではないわけです、高德議員ご案内のとおり。

今、お祭りの全体的な調整をして運営をどうするか。そんな大まかなことで今実行委員会があるんだろうと思います。しかし、先ほど商工観光課長が申し上げましたように、これからの山あげをどうするんだとか、今現在困っているのはどうなんだということは真剣に考えなくちゃなりませんので、今そんなことを含めて観光協会なり自治会、山あげ保存会、そういうもので再度部会等も設置して、これからの運営委員会をどうしようと、これから検討事項であるということ、この組織を再編しなければならない。

これは当然地元6町さんのお考え方、私の考え方、いろいろあろうかと思いますが、そんなことを含めての調整がこれからの検討課題になって、よりより山あげができるような組織にしなければならないと感じるところでございますので、ぜひご理解を賜りたいと思います。

○議長（水上正治君） 農政課長中山 博君。

○農政課長（中山 博君） 食の回廊の件でございますが、地域としましては茂木町と那須烏山市、那珂川町、大田原にかけての国道294号線沿いということに考えております。回廊の名前は八溝そば街道ということにしております。将来的には菜の花を使った特産物、あるいは那珂川の特産物のアユ、そういったものとあわせて売り込みたいという趣旨でございます。

以上でございます。

○議長（水上正治君） 4番高德正治君。

○4番（高德正治君） 今の答弁で理解はしましたが、特に直売所、お祭りの時期、宇都宮街道あるいは294街道、そういったところに直売所を挙げてお祭りのPRといったものもできるような組織がつかれるように要望いたしまして、質問を終わりにさせていただきます。

○議長（水上正治君） 副市長石川英雄君。

○副市長（石川英雄君） 今、議員おっしゃったようにお祭り当日、宵祭も含めて3日と1晩あるわけでございます。その間、ぜひこちらに来ていただいたときにおもてなしができるお祭りと申しますか、そういったものは観光協会と商工会と十分これから検討なされていると思います。特に、この観光協会長さんとはそのおもてなしの心で観光を進めようというお話も再々しておりますので、そんな直売所とお祭り、3日間の期間、どうおもてなしをするのか。

各商店の前の縁台等、そういった接客と申しますか、お迎えする心、そんなものは十分、また商工観光課も入ってお迎えする準備と申しますか接客と申しますか、そういうものは十分話し合って実現化するように頑張っていきたいと思っております。

○議長（水上正治君） 2番渡辺健寿君。

○2番（渡辺健寿君） 難しい話が続いていますので、簡単にお聞きします。

まず13ページの市税、固定資産税の話ですが、滞納分等は徴収ができた時点で補正されるというお話が先ほど税務課長からありましたが、固定資産税、前年対比1,100万円減の計上がされておりますけれども、初日に9,800万円補正されて増になっていきますので、実質ことしの税收最終決算見込みからすれば、1億900万円ぐらい減じた予算になっているんですが、その理由をお聞かせいただきたいと思えます。

逆に、一番下の入湯税につきましては800万円が補正されて600万円になったと思うんですが、予算は740万円ということでこれは大丈夫なのかどうか。増収対策があるのかどうかを含めてお願いできればと思えます。

次、46ページであります。農業委員会費の国、県の支出金232万円とありますが、21ページの収入面、県の交付金を見ますと353万8,000円とあるんですけれども、この差額はどこへ国、県の支出金の収入として計上されているのか、お聞かせいただければと思えます。

そのページの3の農業振興費であります。一番右側にいろいろ事業名が内訳載っております。この中で、県、国の支出金21ページから照らし合わせまして読み取れるのは、2行目の農業経営基盤強化促進対策事業費の補助金が58万7,000円とか、2つ飛びまして強い農業云々というのが923万2,000円というのが読み取れるんですが、ほかの部分、ほかの説明内容の部分、国、県の交付金の名称と変わっております。2つでも3つでも文字が共通するものがあれば読み取れるかなと思って苦労したんですが、わからない部分が非常に多いわけでありまして。何か国、県の制度的な名称と当市の事業計画の名称がそろえられる方法がとれないのかどうか、お願いできればと思えます。

今言った2つ以外にどの国、県の補助金がどの事業に仕組まれているんだという点をあわせてお願いできればと思えます。

次のページですが、地籍調査の費用が載っていますが、地籍調査、何年から何年までの計画になるのか。現在の進捗状況を簡単に何割程度ということで結構ですから、お願いできればと思えます。

下のページでイノシシ捕獲の促進強化事業75万円とあります。これも補助金37万5,000円あるので、2分の1だと思えます。どのような支出を考えるのかお聞かせいただ

ければと思います。

85ページの真ん中よりちょっと下の集落営農育成確保緊急整備支援事業補助金923万2,000円、新規のようではありますが、これらの支出方法といいますか、どんな事業が伴ってくるのかお聞かせいただければと思います。

88ページの住宅費の民間住宅の耐震診断とか、耐震改修とかこの2項目、どのような内容になるのか、説明いただければと思います。

以上です。

○議長（水上正治君） 税務課長高野 悟君。

○税務課長（高野 悟君） 市税のうちの固定資産税の関係で平成20年度3月補正で9,800万円プラスして、今回平成20年度の当初と比較して1,100万円の減ということで、実質的には1億円ぐらいの減じゃないかというご指摘でございます。

滞納繰越分については先ほど申し上げましたように、当初予算では一応大まかな数字ということで予算計上している関係で、若干変わってきますが、先ほど言いましたように平成20年度は900万円で滞納繰越分4,800万円徴収が見込みができたということで、3,900万円ほど結果的にはふえるわけですが、そういったこともありまして、決算ベースでの比較では1億円ぐらい少なくなるというふうな数字を計算されたというふうに思います。

議員ご理解いただいているかと思いますが、固定資産税の評価、3年に一度の評価がえの年でございます。特に家屋についての3年分といいますか、本来であれば減価償却といったことで毎年本当は減額になるはずですが、それは評価がえの年にあわせて3年分評価が下がるということで、特に家屋については減収になるということもありますので、当初予算については現年度分についての減分、それから滞納繰越分について当初予算で平成20年度900万円のところを今回500万円ということで400万円ほど減っておりますので、あわせて予算ベースでは1,100万円の減になっているということで、決算の時点ではその結果で現年度分についても、それから滞納繰越分についても結果的には変わってくるのかなというふうに思っておりますが、当初予算ベースでは1,100万円の減ということで一応計上したわけでございます。

現年度分について下がるのはおかしいんじゃないかというふうな疑問ではないかと思いますが、そういったことで特に家屋の部分ですね、家屋の部分について3年分の減価償却分が結果的に減る。それから、なおかつ新築の戸数が若干少なかったという見通しも出ておりますので、そこらも含めまして家屋部分が若干下がっているということでご理解いただければというふうに思います。

入湯税についても3月補正で200万円落としまして600万円、それなのに新年度で

740万円確保できるのか。正直なところ、大変といいますか、努力目標といいますか、職員等も先日、内容のことはお話ししたかと思いますが、この数字を確保できるように鋭意努力したいということでご理解いただければと思います。

○議長（水上正治君） 農政課長中山 博君。

○農政課長（中山 博君） 渡辺議員の幾つかの質問ですけれども、順番はちょっと前後しますが、まず、イノシシの捕獲事業につきましては、事業費の150万円を予定しているところですが、そのうち75万円を県と市が負担して補助として出すという事業でございまして、電気柵を予定しておりますが、メートル当たり600円ということで距離として2.5キロメートルを予定しております。

923万2,000円の件でございまして、これにつきましては、農業機械の購入ということで荒川南部営農組合がトラクターとコンバインの購入を予定しております。

353万8,000円と歳出が合うかという話でございまして、まず、353万8,000円のうち、128万8,000円は職員の人件費に回ります。それから、200万円ちょうどが農業委員会の運営費、残りの25万円が農用地基本台帳整備事業費に充当されることとなります。

この歳入と歳出の事業の名称が合わない部分がございます。それは農業振興費の中に大半が含まれるという形なものですから合わないということになります。

以上でございます。

○議長（水上正治君） 都市建設課長池尻昭一君。

○都市建設課長（池尻昭一君） お答え申し上げます。まず、地籍調査事業についてのお尋ねの件でございますけれども、平成21年3月末現在、平成20年度末の結果でご説明申し上げますけれども、まず、那須烏山市全体での進捗率については71.18%でございます。

着手年次においては旧南那須町で昭和49年度から、烏山町においては昭和54年度から着手しております。これからどのくらいの年次がかかるのかというお尋ねでございますけれども、旧南那須においては11.77平方キロメートルの事業量残がございます。旧烏山においては30.04平方キロメートルということで、合計で41.81平方キロメートルがございます。ちなみに平成21年度予定については、1.9平方キロメートルを予定しているところですので、まことに申しわけありませんけれども、類推をしていただければ後年度の事業がどのくらいかかるのか、ご理解をいただけるのかなと思っております。

それと、住宅の耐震関係についてのお尋ねがありました。木造住宅の耐震診断については予算で5戸を予定しております。その内容については、目的としては個人住宅を地震に備え安全

かどうかの耐震診断を行う費用でございます。この費用の助成については国が3分の1、県が6分の1、市が6分の1、市民が3分の1ということで、補助対象限度額を10万円という形で積算をしております。

それからもう一つ、診断した結果、耐震改修工事をやりたいというのは当初予算で1戸予定しております。その内容については、補助上限を60万円としまして、国で22.5%、県が13.75%、市も同じく13.75%という形で耐震についての推進を図っていきたいということで予算化をさせていただいております。

以上でございます。

○議長（水上正治君） 2番渡辺健寿君。

○2番（渡辺健寿君） 税務のほうは滞納分の徴収等の調整もあるということでわかりました。

農業委員会の県の補助金で計上されているのが少ないと思ったんですが、その下の農業総務費のほうの国、県の支出金、不足分はこれだという意味でよろしいんですね。

3番の振興費の名称、何とかわかるような意味に、全く同じには言いませんが、いろいろ事情があるんでしょうが、わかるようにできないのですかね。読み取れないんですよ。聞けばわかりますが、聞かないと補助金の名称と市で支出する事業名が全く読み取れない。今は農業振興費でのみ言っていますが、ほかの部分にも相当数見受けられるのでわからない。そういう意味があるのであればもっとお聞きしなくちゃなりません、それはないと思いますけれども、わかるようにしてもらえればと思います。

イノシシの事業費は電気柵ということでわかりました。

集落営農の育成確保緊急対策の920万円につきましては説明があったかどうかと思うんですが、お願いできればと思います。荒川南部の機械と言ったのか。失礼しました。

住宅の耐震診断と耐震改修の補助ということですが、これは一般個人住宅という説明のようでありますから、募集をお知らせ版か何かでやっているということなんですか。その点確認させていただきます。

○議長（水上正治君） 都市建設課長池尻昭一君。

○都市建設課長（池尻昭一君） そのとおりでございます。

○議長（水上正治君） 2番渡辺健寿君。

○2番（渡辺健寿君） 新規の施設について、含んではいなかったように聞き取れましたが、一部含んでいるのかどうか、お願いできれば。

また、いつごろ見込めるのか。あわせてわかりましたらお願いしたいと思います。

○議長（水上正治君） 税務課長高野 悟君。

○**税務課長（高野 悟君）** 入湯税の関係ですね。先ほど努力目標ということも申し上げましたが、正直いいまして大桶の烏山城カントリークラブ、この施設はもう既に工事着手しております。この前、関係者の方の話を聞いたわけですが、今、見通しとしては9月ごろには完成したいんだということで話を伺っております。

そういったことで、若干は見ておりますが、ちょっとつかめない数字、本当に開業なのか施設ができ上がるだけなのかによって違いますので、ただ、ある程度の数字は入っております。ただ、大幅に100万円とかそういった数字は見ておりませんが、10万円単位では見ております。

以上です。

○**議長（水上正治君）** 13番平山 進君。

○**13番（平山 進君）** それでは、もう大体出ているのかなと思うんですが、きのう、一般質問で樋山議員が一般会計からの補正負担金が4,700万円ほど前期よりもふえているというような指摘がありました。私もこれを今調べたんですが、200万円以上、要するに前年度よりふえた予算を拾ってみたんですが、新しく平成21年度の新予算をとっているのが5事業で4,073万円、平成20年度に引き続いて今年度も事業をしているのが5事業で1,191万円というふうな数字になったんですね。

前年度にはなかったけれども今年度に立ち上げた5つの中の200万円以上のものの中で、先ほどもちょっと出たと思うんですが、緊急対策事業だと思うんです。飼料価格高騰の話も出ました。その中で1つ内容を聞きたいんですが、働く軽油券、これの発給事業があるんですね。これの受給対象の条件がもしあるのであれば教えてほしいということです。

それと、前年度に対して今年度200万円以上上乗せになった中で、社会福祉協議会に対して250万円ふえた。障害児デイサービスに対して228万円上乗せになった。それと、特別保育事業に対して210万円上乗せになった。これは障害児なり保育児なり、これはふえたためにこのような数字になったのか。内容がちょっと知りたいものですから教えていただきたい。

以上です。

○**議長（水上正治君）** 農政課長中山 博君。

○**農政課長（中山 博君）** 働く軽油券の内容でございますが、現在、幾らかガソリンが安くなりましたが、軽油はそれほど下がっておりません。そんな中でございますが、現在、ディーゼルエンジンを農機具に使っている農家は免税券というのがもらえます。これはリットル32.1円安くなるという券でございますが、市内には330戸のこれを使っている農家がございまして、年間24万リットル使っております。市としましても、ここにリットル10円上乗せして、農家の負担軽減を図るという事業でございます。

以上でございます。

○議長（水上正治君） 健康福祉課長斎藤照雄君。

○健康福祉課長（斎藤照雄君） 社会福祉協議会に補助金がふえたという件につきましては、いろいろ精査しまして、中身はあるんですが、主なものは平成12年から始まりました介護保険、旧烏山社会福祉協議会のほうでケアプラン作成事業で結構収入があったですね。それが平成18年度の制度改正になりまして、制限が設けられまして収入がかなり減ってしまったんですね。ケアプラン収入が減ってしまいまして、平成18年度以降はほとんどもう貯金ができない状態なんです。

社会福祉協議会としては人件費等結構かかっているものですから、今までは合併後はそのケアプランとかの介護事業のほうから繰り入れをしていたんですね。これが、平成20年度ぐらいでほとんどもう枯渇してきまして、平成21年度からは介護保険のほうから繰り入れがあまり見込めなくなってきたというのが一番大きい原因かなと思います。

障害児関係は、若干平成21年度から制度が変わった関係で、市のほうの負担が減ってきたということがございます。ざっとそんなところですよ。

くれよんクラブ関係もお話ししますと、平成21年度のくれよんクラブにお世話になる子供の数が今のところ小学校に入学したりしまして、少ないんですね。少ないと言いますのは、そこで働く方は頭数が同じでございますので、少ないということは国の負担が少なくなってきましたので、その分市のほうからの負担がふえてくるということになってきます。

なかなかこれも子供の障害を認めたくないようなご父兄の方がおりまして、探しますと、くれよんクラブでご指導したほうがよろしいのかなという方も何名かいるんですが、これは強制ではございませんので、若干平成20年に比べまして平成21年度は子供さんの数が減っているということで、市のほうの負担がふえたということでございます。

以上です。

○議長（水上正治君） こども課長堀江久雄君。

○こども課長（堀江久雄君） 私のほうから特別保育事業の関係についてご説明を申し上げます。これは民間保育園に対する補助事業でございますが、公立も同じ事業はやっているわけですが、病児、病後児、病気にかかっている子供とか治癒した後の子供の面倒をみる事業とか、延長保育だったり、一時預かりだったり、さまざまな事業に対して補助金を国、県とともに市も負担して補助金を出しておりますが、その国の単価が事業ごとに若干アップしておりますので、必然的に前年度と比べて総体で200万円ちょっと上がっているということでご理解をいただければと思います。よろしく申し上げます。

○議長（水上正治君） 13番平山 進君。

○13番（平山 進君） 2点ほど、先ほどの灯油なんですね。これは原油がまた上がり始めてますよね。原油が高騰していますよね。そうすると、当然上がった場合に予算額で収まるか。これは実際そういうふうになるかならないかわかりませんが、そのときには補正を組むという形になるわけですね。

○議長（水上正治君） 農政課長中山 博君。

○農政課長（中山 博君） これはもう既に額を確定していると考えております。というのは、先ほど申しましたように、平成19年度の実績の24万リットルに対してリットル当たり軽油購入に10円を上乗せする。ですから、免税でリットル当たり32.1円、農家は軽油を買いますと、さらに市として10円負担するというシステムでございます。

○議長（水上正治君） 13番平山 進君。

○13番（平山 進君） 特別保育のほうに関してちょっと聞きたいんですが、保育児がふえているというわけじゃないんですか。

○議長（水上正治君） こども課長堀江久雄君。

○こども課長（堀江久雄君） 細かい内容を申し上げますと、1歳児保育担当の保育士を置いておけば、1人増員するごとに529万2,000円という補助基準があります。それから延長保育事業をやっている1園に対して620万円、その事業ごと、あと地域子育て支援事業をやっていれば257万6,000円の補助基準とか、補助基準がありますので、やっている内容については宮原、烏山保育園とも昨年と全く同じでございます。その1事業当たりの単価が若干アップしたために200万円ふえたということでございます。

○議長（水上正治君） 20番高田悦男君。

○20番（高田悦男君） 同僚議員からも質疑があったかと思うんですが、予算書で言いますと47ページ、農業振興費の中に計上されているのではないかと思います。補助金、負担金で言いますと85ページです。原油等生産資材高騰対策事業補助金、今、平山議員から質問がありました働く軽油券の発給事業、そして15番の小森議員、12番の大野議員からも質問がありました飼料価格高騰対策支援事業の3点、共通します。これらの対象者とその利用の方法、そして対象の期間、どのように考えているのか。この点についてお願いします。

○議長（水上正治君） 農政課長中山 博君。

○農政課長（中山 博君） 緊急経済対策につきましては何点かございますが、そのうち3点ご質問がございまして、原油と生産資材につきましてはイチゴとかたばことかという農家がございまして、23戸ございまして。それから、働く軽油券につきましては330戸という形でございます。飼料価格高騰のほうは人数で申し上げますと120戸でございます。基本的には私どものほうから広報いたしまして、申請をとるという形でございますが、先ほどありまし

たように漏れがあると困るという部分もございますので、これは各農家把握できますので、漏れのないようにしたいと考えております。期間につきましては、4月から12月までを考えていまして、1月以降に支給というような考えをしております。

以上でございます。

○議長（水上正治君） 20番高田悦男君。

○20番（高田悦男君） そうしますと、軽油券は市のほうで把握できていると思うんですね。ところが、原油等生産資材及び飼料価格に関しましては、例えばJAから買ったり、あるいは商社から直接お買い求めになるとか、そういうところの把握をどうしてできるのかな。公平性と透明性が心配なんです。その点についてはいかがでしょうか。

○議長（水上正治君） 農政課長中山 博君。

○農政課長（中山 博君） 先ほど人数についてはだれがというのうちのほうで把握してございますので、これは当然飼料あるいは資材の購入先は別でございしますが、基本的に領収書で確認あるいは通帳で確認できるものという形で、漏れのないように対応していくということにしております。

以上でございます。

○議長（水上正治君） 17番中山五男君。

○17番（中山五男君） それでは、私のほうから多分12、3点あるのではないかと思います。私は既に事務局のほうへ質問項目は全部出してありますので、簡潔明瞭なご答弁をいただきたいと思っております。

まず、ふれあい交流体験館に関する事業費の支出であります。これは実は私も経済建設の常任委員としてここで質問すべきではないかと思っておりますが、これは大谷市長のお考えをお聞きしたく、1点だけお許しをいただきまして質問させていただきます。

今回の3日の第1日目の議会にも提案されましたが、ぱん工房は240万円、いちご園は260万円でもって指定管理者にお願いをする。それ以外にふれあい農園は45万円ですね。これは農業公社のほうにお願いをするようです。そのほか借地料が87万2,000円、合わせますと1年間に632万2,000円を公費負担するわけであります。

ぱん工房とかいちご園については、これから小破修繕についてはもちろん指定を受けたものが修理するにしても、大きな修理もこれから出てくると思っております。そうしますと、この年間の630万円にまだ上乘せになってくるわけなんです。これほどの支出をして本市に経済効果、観光開発、さらにはイメージアップが図られるものでしょうか。どうもこの費用対効果に疑問を持っておりますので、この件について市長にお伺いしたいと思います。

次に、16ページに使用料があります。これは市営駐車場の使用料で多分これは烏山駅前の

駐車場の件ではないかと思いますが、この件については別に私は問題としているわけではありませんが、山あげ会館の前とかこの駐車場の前にも、そのほか幾つか市営の駐車場がありますが、特にこの間驚いたのは、1週間ほど前に山あげ会館、8時過ぎにあそこを通りましたらほとんどいっぱいになっているんです。びっくりしました。

この山あげ会館の無断駐車については、平成15年に烏山町の行財政事務合理化検討委員会の中で、管理体制を見直す施設の中にこの山あげ会館前の駐車場が載っております。ここには、駐車場無断占有問題の早期解決となっておりますが、もうこれが出されてから6年になりますが、いまだ解決されていない。このことをどう考えているのか、ひとつこの点についてお伺いします。

次に、30ページの広報事業費です。これは同僚議員から先ほど質問もあったわけなんですけど、ことしは1,760万円もここで使っているわけなんです。ホームページリニューアル事業として情報公開をするわけなんですけど、果たして経済効果、行政効果が、これほど投資して上がっているのかどうか。それと、この部門別に利用状況がわかっているのか。この辺のところ、お伺いします。

32ページの企画費です、ここに地域振興事業費、これは去年もありましたがことしも1,620万円あります。この事業内容とこれも同じように事業効果をどう見ているのか、お伺いします。

これは市長から答弁をいただきたいんですが、定住促進対策費です。ご承知のとおり平成19年の実績は335万円あります。平成20年も予算が2,500万円、ことしも2,500万円であります。昨日の高田議員の一般質問をお聞きしますと、昨年1月から12月までの実績で転入者は27件、在住者は55件、それに対する金額もありますが、金額、件数ともに割合を見ますと、転入者1に対して在住者2なんです。1対2なんです。

これで、この効果を市長はどう見られているか。実は、当初の市長の定住促進対策については転入者のみとしたところ、実は私も否決のほうに回らせていただきまして、在住者も含めていただいたわけなんですけど、これを見て、私も自分自身反対した立場ではありますけど、少々疑問を持っております。

5年間の時限条例でしたね。ただ、5年待たないでこの条例の見直しを今やるべきなのかどうか、この辺のところですね。市長としての考えをひとつお伺いします。

次に38ページの社会福祉費です。これは先ほど平山議員からの質問にかかわる問題なんですけど、社会福祉協議会の補助金、ことしは250万円ほど増額した。その増額した理由は社会福祉協議会としての事業収入が少なくなったために、その分一般財源から補てんをするんだという話のようです。ならば、実はシルバー人材センターなんですけど、これも今不景気でもって

企業の仕事がなくなりました。さらに個人の仕事もなくなりました。今、四苦八苦しているわけなんです。そういう中で、シルバーのほうは対前年で10万円減額になっています。この辺の整合性についてお伺いします。

次に40ページの民生費なんですが、保健福祉センターの壁の工事で1,100万円ほど改修費が見込まれております。これはご承知のとおり建ててから10年ほどたちます。ただ、10年ぐらいで壁が黒くなったりしていますが、施工に問題がなかったのか。この辺のところ1点。それと、今回壁工事となっていますが、壁だけなのか、そのほか屋根についても塗装する考えなのか、お伺いします。

次に42ページ、民生費のすくすく保育園の運営費です。これは向田保育園はおよそ2,000万円だったんですが、今度はこちらに移転しましたら2,500万円とおよそ500万円ほど増額するんですが、新しい施設になってなぜ500万円ほど増額になるのか、お伺いをいたします。

次に教育事務局費、これは教育長からご答弁をいただきたいと思うんですが、英語コミュニケーション推進費、2,983万5,000円です。これは昨年平成20年、英語教育特区としてここは指定を受けたわけでありまして。これはもう既に同僚議員からの質問もありましたが、外国語の指導助手をお願いして生徒に英語を教えるということになっているんですが、この外国語指導助手というのは特別な資格が必要ないと聞いています。そういう外国語のできる外国人等を教壇に立たせて問題はないのでしょうか。これで英語教育の質が確保できるかということです。

ご承知のとおり教員になるには、教員の免許を取得する、さらには採用試験の難関を突破しないと教壇に立てないわけです。そういう面で、外国語の指導助手と教員とでは相当指導者としての力量が違うのではないかと思います。これで問題がないのかどうか。

それと、これもやはり投資対効果というのが具体的に見えないといけないわけです。こういった外国語の指導助手を入れる前の、例えば荒川中学校の生徒の英語の点数が仮に70点だった。ところが今度こういった指導助手を入れたために80点に上がったというのなら、あっ、なるほど、効果が上がったというわけですが、何だか知らないけどとにかく上がったからいいだけでは、我々議会としては納得ができないところであります。

同じく教育事務局費ネットワーク整備事業です。これはことしは700万円ほどですね。これはご承知のとおり去年は1億2,000万円ほど投入してあるわけです。これで、教育長、約1年たちましたが、この効果が上がったんでしょうか。我々、実はこの教育費というのは予算の中でも聖域としてなかなか反対しがたいんですよ。もうやむなくこれで効果があるのかなと思いつつも、あまり反対はしないまま1億2,000万円も出して効果が上がっているの

かどうか私も非常に疑問を持っています。この辺のところは具体的にどうなったのか、この辺についてもお願いをしたいと思います。

次に61ページの文化財保護費です。これは平塚議員からきのう一般質問の中にもありました。大方はわかったんですが、今、見ても長者ヶ平の遺跡として小さい看板が立って、30坪ぐらいの部分が、ここがもとの長者ヶ平の位置なんだというのがわかりますが、そのほか、3年ほど前だったですか、全部農地の上をはいて、遺跡の状況を1回全部出しましたが、しかし、今はもとの農地に復しましたから、今は全然何もわからないわけです。

ああいう状態で、これからどうあれを活用しようとしているのか。具体的に、あのままではだれが言っても感心しないですよ、とにかく農地ですから。約30坪ぐらいの部分はしばらくこうなっていて長者ヶ平の遺跡となっていますが、あれだけでは観光の目玉にも何もならないと思います。これを具体的にどうしようとしているのか、この経済効果、観光効果についてもお願いしたいと思います。

最後にもう1点、これは時間外手当の件です。68ページに載っておりますが、これは昨年と比較しますと、ことしは7,137万1,000円、これは一般職員の一般会計の分だけです。対前年で1,275万4,000円ほど増額になっています。

これは条例で今回9名ほど職員が削減しましたが、それらにも影響して、今度は時間外がふえるのか。また時間外勤務については、今、削減をどう考えているのか。この辺のところ、市長または副市長として、この時間外勤務の制限についてどのように指導されているのか、お伺いしたいと思います。

以上です。

○議長（水上正治君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 私からは、ふれあい交流館、定住促進条例についてお答えをいたします。このふじた体験むら、平成10年に設置をいたしました。その目的は県の単独事業を取り入れまして、小倉の体験むらとセットで2カ年で整備をさせていただきました。以来10年というところなんです。その経営状況につきましては、昨年の9月にいろいろとご議論いただいた経過がございます。

そのような中で、県のご指導もいただきながら、今、経営改善計画に基づきまして鋭意努力をしてまいりました。その結果、おかげさまで指定管理者制度も導入することができまして、4月1日からは生まれ変わった形でスタートすることになりました。大変ありがたいことでございます。ぜひともこの指定管理者につきましては可決をいただきますように重ねてお願いをいたします。

この630万円の経緯等につきましては、ぜひ私は農業公社等につきましては新しい理事の

体制のもと、組織も新たにいたしましてスタートをする予定でございます。したがって、農業公社の法人化を目指しながら、大改革を前提にスタートしたいと考えております。したがって、予定どおりこの経営も改善をしながら、県の指導もありましたとおり、基金を戻すということにまず専念をしていきたいと思っております。

一方、いちご園、パン工房等につきましては、指定管理者にぜひご繁栄を願って、この市からの負担金が毎年毎年少しでも縮減ができるような経営をなさっていただくように心から期待をするものです。

それと、定住促進条例でございますが、確かに想定をされていた程度かなと私も考えておりますが、今後の条例の見直しについては議会の議決が必要でございますので、今、中山議員からのご意見等も踏まえながら、平成21年度に検討していきたいと考えておりますので、またその際にはひとつよろしくお願ひしたいと思います。

以上でございます。

○議長（水上正治君） 副市長石川英雄君。

○副市長（石川英雄君） 私のほうから2点お答え申し上げたいと思っております。山あげ会館前の駐車場の件でございます。これにつきましては、先ほど中山議員が8時以降の駐車場の件のお話もございました。そんなことを含めて、また山あげ会館、観光協会に管理委託を指定管理者としてお願いしているわけでございます。そういったことで、観光協会のあそこの管理運営の考え方、それから私もあそこの公共施設、災害等の避難関係、山あげ会館ご利用の皆様、近隣等のお買い物の関係の方、そういった方を含めて、あそこは山あげ会館利用者は無料、ある一定時間については無料とか、占用と申しますか、そういう方については利用者負担の原則ということでそんなことで利用を考えてございますので、ひとつぜひご理解を賜りたいと思っております。

それから第2点目の職員の時間外の問題でございます。これにつきましては当然課長が職員の人事管理を行うわけでございますので、そういった適正な職務の配分、そういうことをしてなるべく時間外のないようにするわけで、それは努力していただきたいと思っております。これまで年間100時間を目標に設定してございましたが、目標は撤廃をいたしました、少なくとも1時間でも少ないように残業がないように、そういった管理をしていきたいと思っております。

また、特別な事業等が発生すればこれは問題でございますが、また選挙等とかを含めてこれは必ず時間を必要とするものについては時間外が発生するわけでございますので、そういったものは特例ということになるかと思っておりますので、ぜひご理解いただきたいと思っております。

○議長（水上正治君） 総務課長木村喜一君。

○総務課長（木村喜一君） 同じく一般会計も職員費の時間外手当についてちょっと説明し

たいと思いますが、昨年、時間外の手当の中に栃木県知事選挙の職員の時間外手当が含まれております。平成21年度につきましては、衆議院議員選挙、市長選挙、2つの選挙が入っております。いずれも期日前投票の関係とか選管書記の時間外手当、選挙当日の職員の従事関係の手当等が今年度は約1,745万円ほど予算組みをしております。その関係でそれを引いても300万円ほど多いんですが、平成20年度退職される方はほとんど管理職でございます。平成21年度新採用で採用した者が7名おりますので、そういったものの時間外手当も含んだ上でのトータル的な1,275万4,000円という数字になっております。

○議長（水上正治君） 総合政策課長国井 豊君。

○総合政策課長（国井 豊君） ご質問がございました広報事業費であります。30ページだと思っておりますが、1,764万3,000円の内訳であります。これはお知らせ版の費用、約460万円。それから広報なすからすやまが約500万円ございます。そのほかに質問がございましたホームページのリニューアルとして約800万円程度が入ってございまして、この事業費になっております。

ホームページにつきましては、先ほど久保居議員にも説明をいたしました。現在の市のホームページ、非常に使い勝手が悪いということで、その辺の改修、どこの課からも新しい情報を入力できるようなシステムにしたい。それから、現在の本市のホームページであります。トップページから情報を入手するのに時間がかかるというのは、またひとつ欠点になっております。

さらには、これから高齢者とか障害者の方に閲覧していただくのに、そういう配慮がなされていない。そういうことがございまして、これらを含めて総合的に改修したい。常日ごろ市長は新鮮な情報を流せということなんです。やはりどうしても1カ所での改修ということになりますと、その辺がちょっとおろそかなようなところがございまして、今後はこれらを改修して、常に新鮮な情報を全国に発信していきたいということで考えております。

それから、地域振興事業関係であります。1,620万円でございますけれども、先ほどの久保居議員とちょっとダブる点があるかと思っております。内訳としましてはまちづくりの団体支援事業、これは合併時に合併特例債13億ちょっとでございましたが、これを借り入れまして、その利子運用で市の単独事業でまちづくり支援団体に対して支援を行っております。

現在、11団体がこの事業に参加をしていただきまして、昨年でありますと合併記念の烏山公民館などで発表していただきましたあの団体もそうでございます。そのほかに11団体というようなことで、それぞれの地域で活動、活躍をしていただいております。それなりの効果が出ているものというふうに思っておりますが、毎年この団体については評価をして、翌年度の補助の交付を行っているということでございます。

なお、もう1点は我がまち自慢でございます。先ほどの件です、大木須のオオムラサキ、そして、むらおこし事業については、市以外からのそば祭りとかオオムラサキの放蝶等あるいは最近では幼虫、これらの関係も実施されました。かなり事業効果が上がっている。さらには那須烏山駅前のイルミネーション、現在、南那須庁舎の前でイルミネーションがやられておりますけれども、できれば大金駅前からこちらまで実施できれば、あわせて烏山線、高根沢の駅前でも昨年から今年にかけて実施されました。烏山線のルートも使って烏山線の宝積寺駅、大金駅、烏山駅、こういう連携のもとでまちおこしをできればというふうに考えて、県の補助事業を入れた事業でございます。

それから、コミュニティ関係は高瀬自治会ということで、高瀬自治会で公民館を設置するということでございますので、これらについては宝くじの基金から900万円補助するものでございます。内訳は以上のような内容となっております。

○議長（水上正治君） 健康福祉課長斎藤照雄君。

○健康福祉課長（斎藤照雄君） 38ページの社会福祉費の社会福祉協議会への補助金の増でございますが、社会福祉協議会の職員の定期昇給は毎年ございます。それらの上昇分を、先ほど申しましたように介護保険のほうの事業運営費で積み立てていた基金取り崩し等の繰り入れである程度手当していたものが、先ほどのようなことであまり収益が上がらなくなったということで見込めなくなってきました。それで、250万円の増ということになりました。

比較しましてシルバー人材センターにつきましては、去年、今年を比較しますと、事業がやはり落ちているんですね。こういった草刈りとか草取りとか、やはり経済が若干落ち込んでいいる関係でどうしても頼む方が少なくなりまして、事業が若干減っております。

人件費はそういうことで若干上がるんですが、時間外の10万円ぐらいについてはほとんど時間外はないんじゃないかということで、去年に比べまして10万円ほど減らさせていただいたという次第でございます。

それから、健康福祉センター壁改修工事業費でございますが、これにつきましては先ほどのお話のように10年を経過いたしまして、構造上の問題かどうか樋から縦樋のほうになかなか水が流れないんですね。これはスズメの巣とかいろいろなものがつかえていまして、壁を伝って落ちるような状況で、かなり外から見て見苦しいような状況になってまいりました。

それからあわせまして、真ん中と正面から右のほうに三角屋根の明かりとりがあるんですね。これもガラス部分のコーキングが劣化いたしまして、雨漏りがしてきた。現在は若干職員等の応急処置で小さいほうの明かりとりについては雨漏りは何かと収まっているんですが、またいつ起きかわからないということで、架設費といいますか、外側に架設しますと結構工事費がかさむということで、壁の改修とあわせてその明かりとりの雨漏りの工事をするということで

ございます。

以上です。

○議長（水上正治君） こども課長堀江久雄君。

○こども課長（堀江久雄君） すくすく保育園の500万円増はということでお答えをいたします。ご承知のように、4月から定員を45名から100名に増員いたしまして、今はやっていないゼロ歳児保育を開始するというので、クラス数が1つふえます。必然的に人数が足りないので臨時保育士1名を増員することといたしておりますので、それで約250万円ほどの増加となっておりますのが1点。

それから、ご承知のように、3階まで旧野上小学校を使うわけですが、電気のメーターとか水道とか個別メーターに分けることができないということで、すくすく保育園のほうで3階部分までの光熱水費を一括計上いたしております。したがって、消防設備とか電気保安とか警備関係も3階部分まで一括保育園費のほうで計上したことに伴って、あわせて500万円が増額となっております。

ただし、全く同額ではございませんが、今まで向田公民館費で当然支出をしておりました光熱水費とか警備関係、それは平成21年度予算からは減額となっております。

以上です。

○議長（水上正治君） 教育長池澤 進君。

○教育長（池澤 進君） 私のほうから英語コミュニケーション科についてお尋ねですので、お答え申し上げます。

午前中、沼田議員から市長の3年半の実績について3つ挙げよということのお尋ねがございました。第1位は道整備、第2位は英語特区、第3位はICTきずなどお答えになられて、将来は環境問題について意を尽くすという答弁をされました。まさにこの英語特区でございますが、金額は確実に小さいというわけではございません。

しかし、私どもこの英語特区を導入するまでには、文教福祉常任委員会あるいは議会で英語コミュニケーション科がいいのか、いや、国語じゃないか、いや、これからの社会を見たら理科じゃないか、高い議論をちょうだいいたしました。その結果、最終的に英語コミュニケーション科にご理解をちょうだいして、各学校に落とすところでございます。

この英語コミュニケーション科を中山議員おっしゃるとおり、私どもはネイティブスピーカー、英語を母国語として常に使っておられる国の方々の中で、日本へ来て指導するに値する方々を7名、私どもは今各学校にお願いしてございます。これは平成21年4月から文部科学省は小学校、中学校に総合的学習の1時間を削って英語コミュニケーション科をつくりなさい。私どもはこの情報は既に知っておりましたので、議論の中でぜひ英語コミュニケーション科を

お願いしたいということに結果としてはなったわけでございます。

今子供たち、英語の先生あるいは小学校では英語を得意にする担任の先生がALTと一緒に英語コミュニケーションの学習をしてございます。私どもはかつて中学校からずっと英語学習をしてきましたが、この英語コミュニケーションについては学ぶ機会がほとんどございませんでした。そこのところに重点化して学校に落としたということは、これは必ずや子供たちに大きな自信がつくのではないかと考えています。

ともすると、皆さんのご家庭でお子さんやお孫さんがいらっしゃる家庭では、この英語コミュニケーション科は必ず話題になっていると思います。きょうはこういう会話を勉強してきたんだよ、犬はこういうんですよ、猫はこうだよ、高学年になれば、「NICE TO MEET YOU」、中学生になればさらに高い英語コミュニケーションを勉強してきて家庭の団欒にさえ寄与しているのではないかと考えています。したがって、この効果は今金額は大きいですが、やがて大きな果実を生むのではないかと考えています。

○議長（水上正治君） 学校教育課長駒場不二夫君。

○学校教育課長（駒場不二夫君） 情報教育ネットワーク整備事業につきまして、私のほうからご説明申し上げます。昨年1億2,000万円で児童生徒のパソコン、教職員のパソコンも含めて480台ほど買わせていただきました。これは今までは各学校ごとにリースであったものを、補助事業を受けて一括買ったという形でありまして、確かに以前のコンピューターよりもずっと機能もいいわけですから、これをきれいに使いこなせれば、ただ、まだ入れて1年ということですので十分使いこなせていない部分はあるんだろうと思いますが、これは各学校から2名ほど代表者を出させまして、検討委員会、それから教職員を集めて研修会を年に4、5回やっております。

これらが十分機能すれば、特に学校間、教育委員会ともLANがつながっていますので、今までできなかったことがすぐ情報提供、情報交換できるようになったというメリットもありますし、電子ボードなどは授業にも使える、先生が書いたものがきちんと清書したようになって出るというふうな使い方もありますので、これはまだ先生方が十分使えない部分もあります。今後の講習会、研修会を踏まえて使えるようになればと思っておりますので、もう少し長い目で見ていただければと思っております。よろしく申し上げます。

○議長（水上正治君） 生涯学習課長鈴木 傑君。

○生涯学習課長（鈴木 傑君） 一昨日の平塚議員からの一般質問にございました長者ヶ平の関係でございますが、現在は田んぼの状態でございます。現在、市といたしましては平成20年の12月4日に保存管理の調査整備指導委員会を立ち上げまして、奈良文化財研究所長さんを長といたしますメンバーによります保存の仕方のエリア指定を今検討しています。エリ

ア指定という表現は、どの部分をどのように保存すべきかということを検討してもらうわけです。その結果を踏まえまして、職員によります内部検討委員会で、今、中山議員が言われた基本構想を組み立てていきたいという流れでございます。

その基本構想は一昨日も言いましたように、復元すべきなのか、公園化すべきなのかというものを内部で検討していきたい。その段階でございますので、中山議員が要求されますような具体策を今の段階で申し上げられないのは大変申しわけございませんが、事業の流れとしましてはまずエリア指定をしまして、エリア指定を受けることによりまして国庫補助の事業が該当するという、その段階で基本構想を検討していくという流れをご理解いただきたいと思います。以上でございます。

○議長（水上正治君） 17番中山五男君。

○17番（中山五男君） 1点ほどさっき落としたのがあります。文化財保護の烏山城址の確認として810万7,000円載っていますね。これは午前中の沼田議員の質問の中で埋蔵金の発掘調査なども含むんでしょうか。具体的にどこをどのように発掘するのか。それとも長者ヶ平のほうは今戻してありますが、あのままで国の史跡として指定を受けましたが、何ら価値がないのではないかと思います。いかにすべきか、これからさらに検討をお願いしたいと思います。

社会福祉関係のシルバー人材センターの補助金が10万円減りますね。この仕組みとして、国庫補助金というのは市の補助金と同額交付されるわけですよ。700万円市から出れば、その分だけ同額が国から出る。10万円減るということは国からも10万円減って、ダブルで20万円減るということになりますので、この辺のところは担当課長として、これからさらにご検討をいただきたいと思います。

使用料の件で、この駐車場なんですけど、どうなんです、山あげ会館とかもう今の部分の一部分を有料駐車場にするということも1つの案かと思いますが、それができるのかどうか内部でひとつ検討いただきたいと思います。

もう一つ、すくすく保育園並びに烏山の南公民館が今月中に完成の運びとなるわけなんですけど、このオープン式は何らかの形で考えているのでしょうか。この点お伺いします。

○議長（水上正治君） 生涯学習課長鈴木 傑君。

○生涯学習課長（鈴木 傑君） ご指摘のように長者ヶ平につきましては、早期に構想を立ち上げまして何らかの手当をしなければ、指定されたという名目が立たないかと思いますので、その際には提案申し上げたいと思いますので、ご理解方をよろしくお願いしたいと思います。

もう1点、烏山城址の発掘調査でございます。現在、烏山城は絵地図ですね。設計ではなくて絵になっている地図がございます。それでありまして寸法等がよくわかりません。ござい

ますので、我々としましては、どのような城が建っていたのかという寸法を測量調査をしたいということで、今回、国庫補助事業を受けることができましたので調査するものでございます。場所は烏山高等学校の西側にある烏山城址という山の上なのでございますが、そういうところの場所を山頂に、さしあたって平成21年度は古本丸の場所を調査したいと思います。古本丸、本丸、二の丸、三の丸ということで、位置があるんですが、平成21年度は古本丸の場所を調査するというご理解いただきたいと思います。

以上です。

○議長（水上正治君） 健康福祉課長斎藤照雄君。

○健康福祉課長（斎藤照雄君） シルバー人材センターの補助金の減額ですけれども、事業実績が落ちたということが今回ありますので、それでその中身なんですけど、植木の手入れ等については非常に要望が多いので順番待ちなようなんですね。ですから、そういった要望の強いようなたくさん申請のある、そういったものについて人夫さんを育成するとか努力をいただきまして、収入額を少しでもふやすようお願いしたところでございますので、市とあわせて県のほうも減るということですので、20万円、確かにシルバー人材センターとしては厳しいことかなと思いますが、努力目標ということでよくお話をしたところでございます。

以上です。

○議長（水上正治君） こども課長堀江久雄君。

○こども課長（堀江久雄君） すくすく保育園のオープン式はどうなんだということなんですけど、現在、予定では4月2日の10時から入園式を予定しております。昨日、市長と日程相談させていただきまして、その前の4月2日午前9時から開園式を実施する予定といたしております。よろしく願いいたします。

○議長（水上正治君） 17番中山五男君。

○17番（中山五男君） 烏山城址の関係についてなんですが、発掘その他については地権者の理解は得られているのでしょうか。

○議長（水上正治君） 生涯学習課長鈴木 傑君。

○生涯学習課長（鈴木 傑君） 平成21年度に行う三の丸は新井政一郎さんのほうから承諾を得ております。当然そのほかにあと2人いらっしゃいますので順次話を進めながら調査をさせていただきます。

○議長（水上正治君） 以上で、質疑がないようですので、議長において議事を進行し、これで質疑を打ち切ることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（水上正治君） 異議なしと認めます。

よって、これで質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま上程中の議案第1号から議案第10号までの平成21年度那須烏山市一般会計・特別会計・事業会計予算については、各常任委員会に付託したいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（水上正治君） 異議なしと認めます。

よって、議案第1号から議案第10号までの10議案を、それぞれ所管の常任委員会に付託することに決定いたしました。

○議長（水上正治君） 以上で本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれで散会します。大変ご苦労さまでした。

〔午後 4時27分散会〕